

Contex 大判スキャナ HD Ultra X シリーズ 取扱説明書



モデル : HD Ultra X シリーズ

UG14195-1A HDU X Jan 2019

目次	
このガイドについて	
この取扱説明書について.....	3
HD Ultra X シリーズ大判スキャナの主な仕様.....	4
梱包.....	5
開梱.....	6
安全のために.....	6
スキャナを梱包箱から取り出す.....	6
ケーブル.....	6
スタンドの組み立て.....	6
スキャナの概要.....	7
スキャナの正面図.....	7
スキャナキーパッド/操作パネル.....	8
スキャナ背面図.....	9
インストール.....	10
インストールの手順.....	10
ソフトウェア.....	11
クリーニング.....	12
接続.....	14
WIDEsystem スキャナの検出.....	16
ソフトウェアインストールウィザード.....	16
省電力モード.....	17
スキャナのライセンス認証.....	18
オンラインでのスキャナのライセンス認証.....	19
手動認証.....	20
スキャナのキャリブレーション.....	22
ネットワーク接続.....	24
電源のオン/オフ.....	25
主電源スイッチ.....	25
スキャナのセルフテスト.....	25
スキャンの準備完了.....	25
ウェイクアップモードとスリープモード.....	26
自動スリープモード.....	27
スキャナに原稿を挿入する.....	28
原稿中央合わせ.....	28
原稿右合わせ.....	29
自動給紙.....	30
手動給紙.....	30
ペーパーリターンガイド.....	30
スキャン後の原稿の取り出し.....	31
高速給紙.....	31
低速給紙.....	31
原稿圧の調整：薄手メディアの場合.....	32
入力サイズの設定.....	32
バッチスキャン.....	32
スキャナの速度制御.....	33

速度表示.....	33	エラー報告.....	60
WIDEsystemによるスキャナの状態確認.....	34	一般的なエラーの修正.....	60
メディア厚自動調整機構(OTAC).....	35	技術サポート.....	60
OTACを上げる.....	35	スキャナのインストールに関する問題と解決方法.....	61
OTACを下げる.....	36	考えられる原因と解決方法.....	61
厚手メディア位置でスキャンするときの注意点.....	37	一般的なスキャンの問題と解決方法.....	62
ステッチパラメータの変更.....	37	スキャン結果に関連する問題.....	65
メンテナンス.....	38	付録.....	67
スキャナのメンテナンスについて.....	38	スキャナを安全に使用するための注意事項.....	67
主要なメンテナンス箇所.....	39	規制.....	68
スキャニングエリアの清掃.....	40	FCC 規制.....	68
カメラ調整と補正.....	45	有毒/有害物質または成分.....	68
スキャナの部品を交換する.....	48	スキャナ寸法.....	69
ガラスプレートの交換.....	49	高さ調整可能なスタンドの寸法.....	70
ガラスプレートを取り外す.....	51	スキャナ本体総重量.....	71
ガラスプレートの取り付け.....	53		
ホワイトバックグラウンドの交換.....	54		
新しいファームウェアのダウンロード.....	59		
スキャナファームウェア.....	59		
ファームウェアのアップグレード.....	59		
スキャナで動作しているファームウェアのバージョン.....	59		
新しいファームウェアのインストール.....	59		
トラブルシューティング.....	60		

この取扱説明書について

この取扱説明書では、HD Ultra X シリーズの操作、及び保守の方法について説明します。

製品について

製品名	型番	機能
HD Ultra X 6090	RB67G	60 インチ大判カラーสキャナ
HD Ultra X 4200	RC67G	42 インチ大判カラーสキャナ
HD Ultra X 3600	RC67G	36 インチ大判カラーสキャナ

HD Ultra X シリーズスキャナ

この取扱説明書では、お使いのコンピュータとオペレーティングシステムに関する基本的な知識があることを前提とし、それらに含まれている取扱説明書で説明されている情報は省略します。

取扱説明書の以下の項目を必ずご参照ください。

1. 「インストール」の項では正しいスキャナドライバのインストール方法とスキャナの認証方法を説明しています。
2. 「安全に関する重要な注意事項」では安全にスキャナをお使いいただくための注意事項を説明しています。
3. 「メンテナンス」の項では最高品質でスキャンする方法を説明しています。

HD Ultra X シリーズ大判スキャナの主な仕様

60、42、36 インチの読み取り幅 / 厚手のメディアに対応 / イーサネット、USB インターフェース内蔵 / Scan to クラウドを可能にするタッチタブレットをスキャナに設置することが可能 (オプション)

	HD Ultra X 6000	HD Ultra X 3600/4200
接続	ギガビットイーサネット(最大 100 MB/秒)、USB3 超高速データ転送(最大 250 MB/秒)	
カラースキャン速度 (200dpi) モノクロスキャン速度 (200 dpi)	452.12mm / 秒	
最大スキャン幅	60 インチ (1524 mm), A0+ ANSI E+	36 インチ(914mm) / 42 インチ (1067mm) A0+ ANSI E+
最大メディア幅	1570 mm	1113mm
原稿挿入位置	中央合わせ、および右合わせ (ソフトウェアで選択可能)	
ペーパーガイド、ペーパーリターンガイド	給紙トレイに磁気で取り付けるペーパーガイド、取り外し可能なペーパーリターンガイド (スキャナの背面に取り付け)	
光学解像度	1200 x 1200 dpi (光学解像度)、9600 dpi (最大補間解像度)	
厚メディア	メディア厚自動調整機能 (OTAC) : スイッチで上部カバーを調整し、15mm 厚までの原稿の挿入が可能	
精度	0.1% +/- 1 pixel	
LED 照明による光センシング	CCD x7 基 (電荷結合デバイス)	CCD x 5 基 (電荷結合デバイス)
原稿サイズ検知	スキャナ本体のデータ光学センサ (ペーパーセンサ x6 個) とソフトウェアでの自動原稿サイズアルゴリズム	スキャナ本体のデータ光学センサ (ペーパーセンサ x4 個) とソフトウェアでの自動原稿サイズアルゴリズム
ポータブルタブレットリモートシステム (スキャナ設置)	ポータブルデバイスを使用し、リモートでスキャンとコピーが可能* (Nextimage に接続)	
消費電力 (待機/スリープモード時/スキャン時)	最大 39W / 1W / 130W (内蔵電源)	
スキャンソフトウェア	Nextimage、WIDEsystem (スキャナドライバ)、Context AIO (iOS/Android APP、Nextimage とリンク)	
本体質量 / サイズ (幅 x 奥 x 高)	63kg / 1810mm x 475mm x 200mm	49kg / 1360mm x 475mm x 200mm
梱包質量 / サイズ (幅 x 奥 x 高)	79kg / 1960mm x 690mm x 312mm	59kg / 1481mm x 690mm x 312mm
梱包	緩衝材付き厚手段ボール箱	
高さ調節機能付きスタンドのサイズ (幅 x 奥 x 最大高さ)	1796mm x 792mm x 816mm	1274mm x 792mm x 816mm

* マウント済みタブレットデバイス (オプション)。iOS/Android アプリをダウンロードしてください。

梱包

1

梱包明細

スキャナを別の場所に移動する場合はこの包材を使用してください。

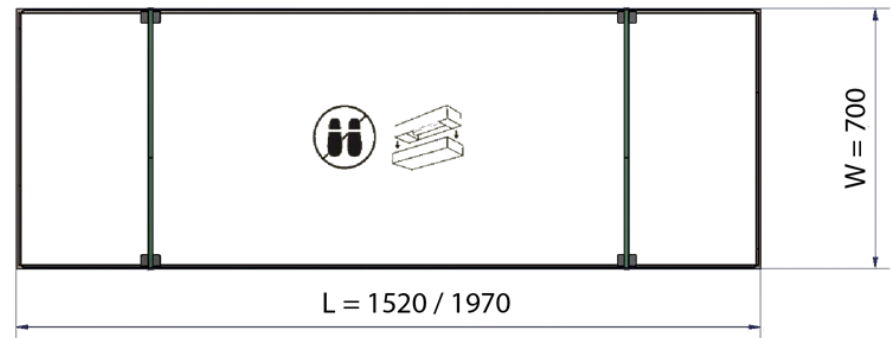
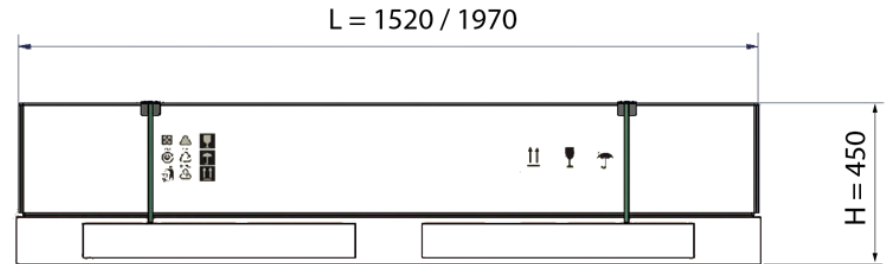
包材は、通路や非常口の妨げとなる場所に置かないでください。

この包材を廃棄する場合は所定の方法で処分してください。

アクセサリキットや説明書などを梱包材と一緒に廃棄しないように気を付けてください。



メモ：サイズの単位：ミリメートル



開梱

警告: このスキャナは非常に重いので、取り扱いには十分に気を付けてください。

安全のために

スキャナを設置できる十分なスペースと、設置を援助できる人員を確保してからスキャナの開梱を始めてください。

 **注意!** スタンドにスキャナを設置するときに指を挟まないようにご注意ください。


スキャナを梱包箱から取り出す

スキャナは非常に重いので決して一人でスキャナを持ち上げないでください。スキャナの箱を開梱し、包材を取り外す時、また、スタンドを組み立てる時、スキャナをスタンドに設置する時は、二人でスキャナを持ち上げて、もう一人の人が包材をスキャナから取り除くことができるように3人で作業されることをお勧めします。

スキャナを運ぶ時、梱包材に足を絡めて転んだりすることがないように気を付けてください。

ケーブル

スキャナをケーブルの上に乗せないでください。特にUSB3 ケーブルは破損しやすく、正しく機能しなくなる恐れがあります。

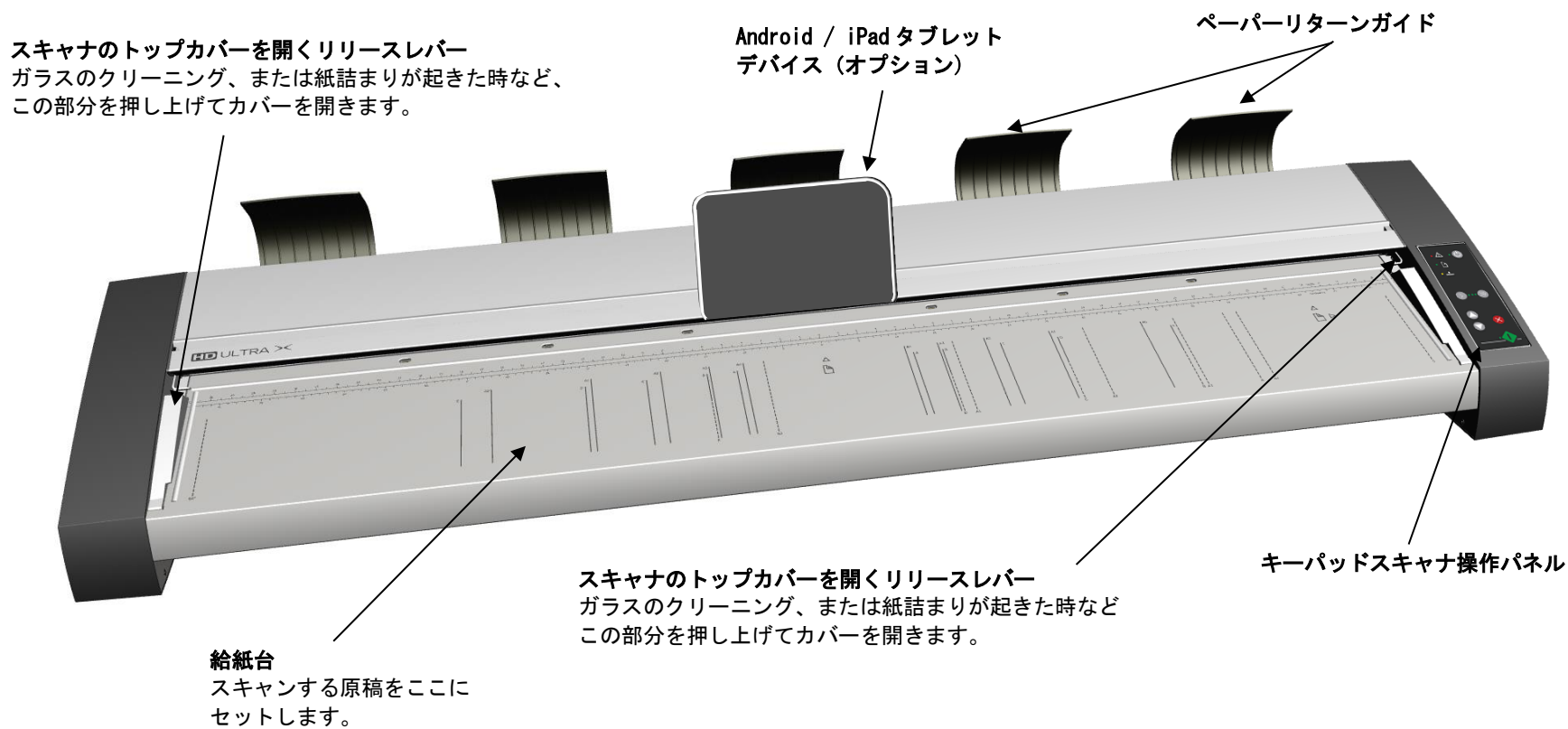
 スキャナを持ち上げる場合は背中を傷めないように注意して二人以上で行ってください。

スタンドの組み立て

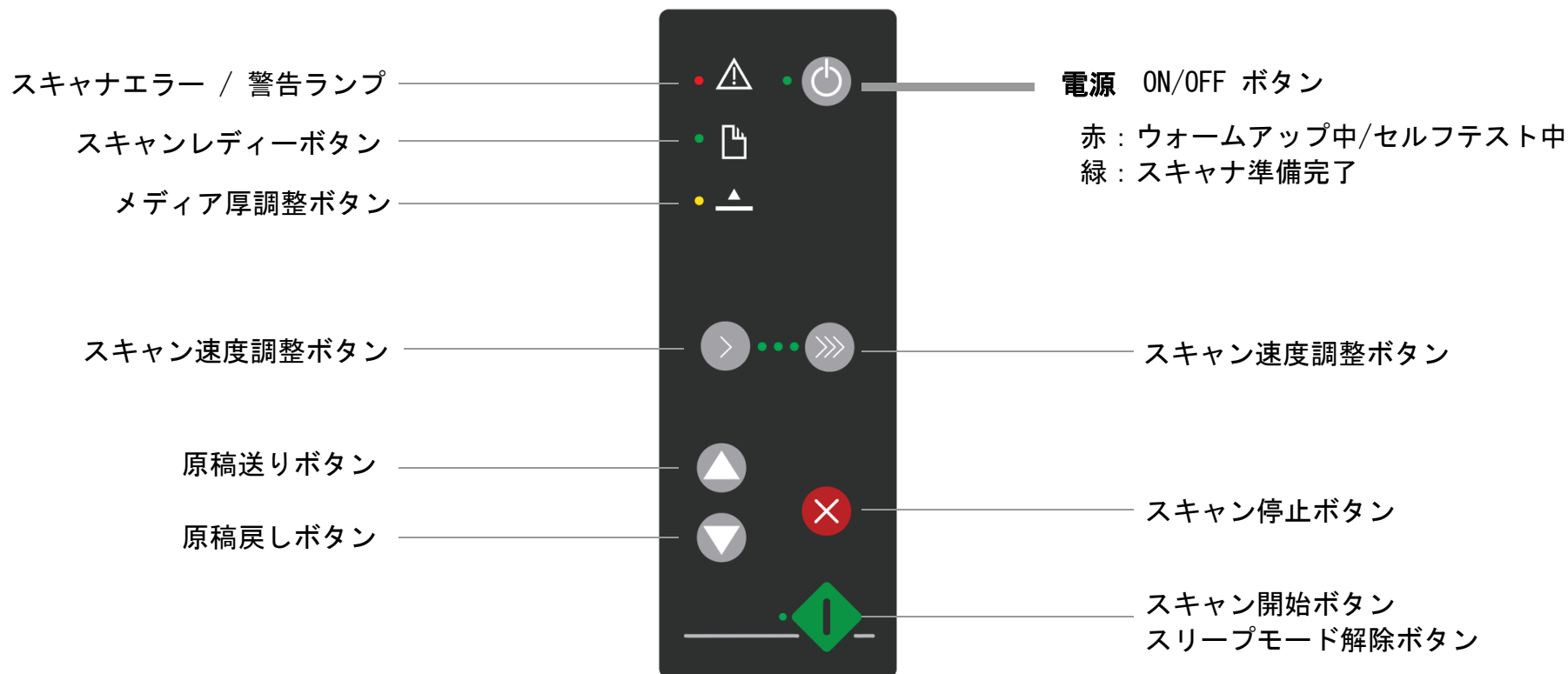
スタンドを組み立てるときは、付属の工具を使用して、スキャナスタンドの固定具をしっかり締めてください。少なくとも6ヶ月毎に、またはスキャナを別の場所に移動した時や、設置した時よりスキャナとスタンドの取付けが緩く感じられる場合、すべてのボルトがしっかりと締められているかを確認してください。

スキャナの概要

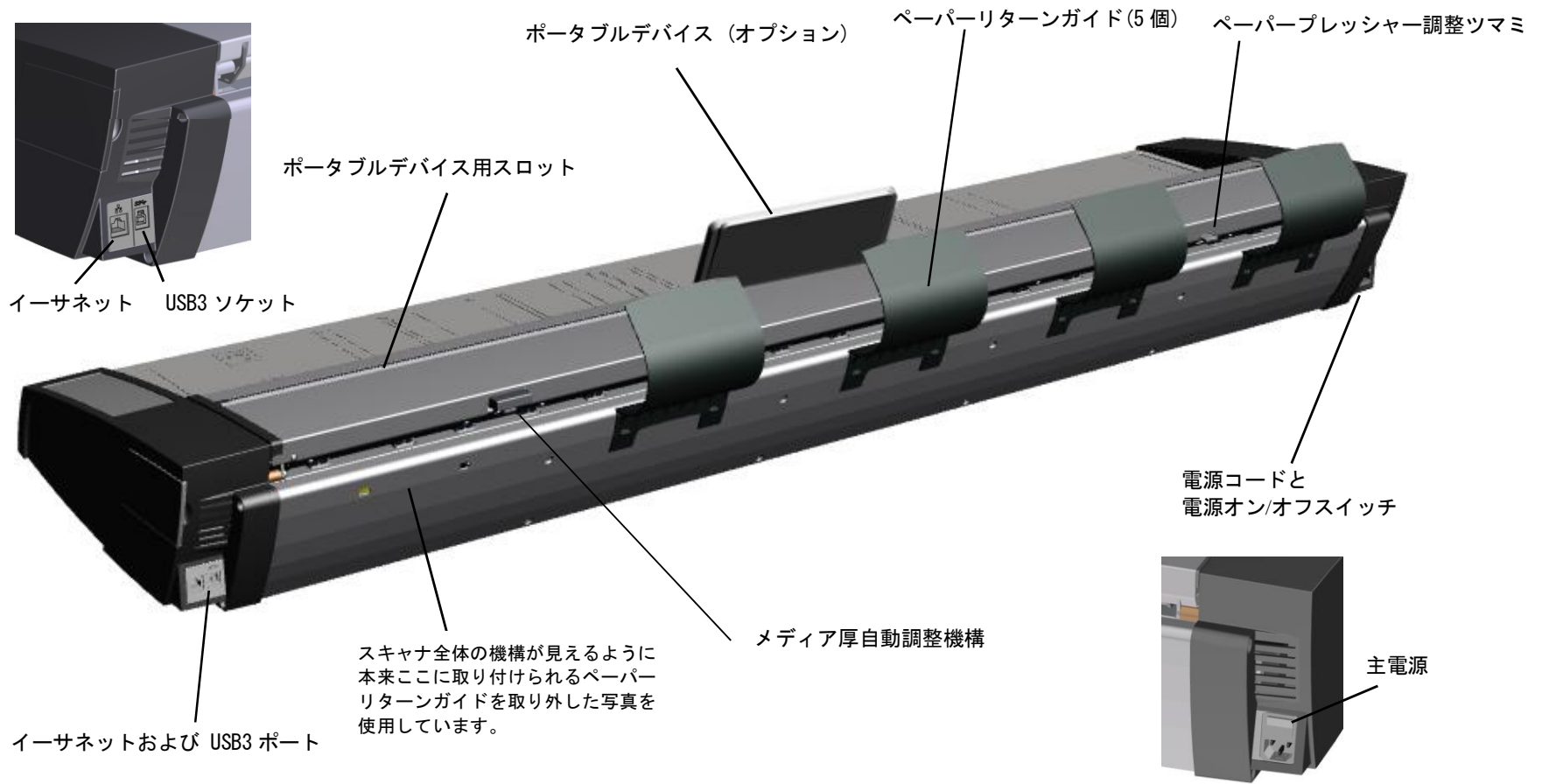
スキャナの正面図



スキャナキーパッド/操作パネル



スキャナ背面図



インストール

インストール

以下の手順に従って、スキャナドライバと WIDEsystem ソフトウェアをインストールします。
Nextimage スキャンソフトウェアのインストールは、このガイドでは説明されていません。

システム最小動作環境

- Intel CoreDuo、Core 2 Duo または i5 プロセッサ、4GB RAM、7200rpm HDD を搭載した Windows PC
- USB3、およびギガビットイーサネットインターフェイスおよび 64 ビットの windows 10、Windows 8、Windows 7 オペレーティングシステム
- WIDEsystem TOOLS USB メモリ（スキャナに同梱）
- Nextimage スキャンソフトウェア、または互換性のあるサードパーティ製ソフトウェア
- アース付きコンセント



注記：公開された速度テストは、Nextimage ソフトウェアと 8GB のメモリを搭載した Intel Core i5-2500 クワッドプロセッサを使用して計測しています。



注記：通常、PC が USB3 に対応しているかどうかは USB の接続端子の内部を見ると確認できます。USB ソケットの内部が青色であれば USB3 に対応しています。または SS (SuperSpeed) という文字が刻印されています。

インストールの手順

2

スキャンステーションを設定する

スキャナは特別に設計された独立型フロアスタンド、または頑丈な台に設置する必要があります。スキャナの後ろには、手を入れてケーブルを接続できるだけの十分なスペース、原稿を排紙できるスペースを確保してください。



重要：この段階では、まだスキャナを電源にも PC にも接続しないでください。




この取扱説明書の「スキャナを安全に使用するための注意事項」を参照してください。

ソフトウェア

3

WIDEsystem とスキャン/コピーソフトウェアを PC にインストールする

!重要：WIDEsystem には、スキャナに必要なドライバが含まれています。WIDEsystem のインストールは、スキャナを接続したり、スキャンソフトウェアを使用したりする前に行う必要があります。

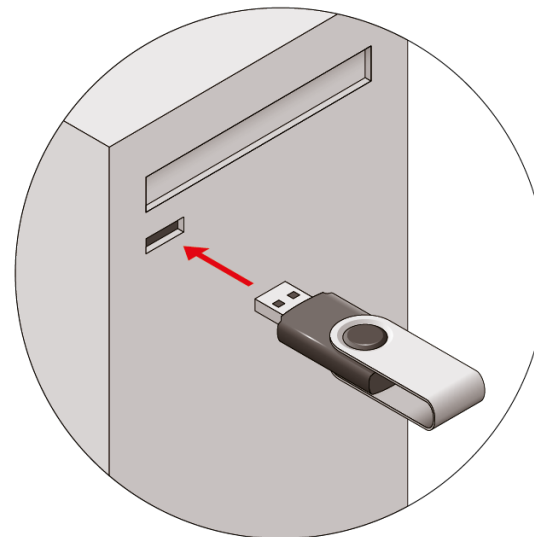
- WIDEsystem USB メモリを PC に挿入します。通常は、セットアッププログラムが自動的に起動します。起動しない場合は、USB メモリ上で setup.exe ファイルを探し、ダブルクリックして手動で実行してください。
- 画面に表示される指示に従って WIDEsystem ソフトウェアとスキャナドライバをインストールします。指示に従って PC を再起動し、インストールを完了します。
- WIDEsystem が正しくインストールされるとシステムトレイに WIDEsystem のアイコンが表示されます。 
- USB メモリを取り外します。

Contex Nextimage をインストールするか、またはサードパーティのスキャン&コピーソフトウェアをインストールします。

!重要：インストール中にソフトウェアにネットワークへのアクセスを許可するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、必ず[はい]を選択してください。

!警告：この段階では、まだスキャナを電源にも PC にも接続しないでください。これは、次に行う清掃作業やチェック作業において、怪我やスキャナの破損を防ぐためです。

ソフトウェアをインストールした後、PC の電源はオンのままにしてください。（次の手順で行うスキャナの準備と設定が必要となります）



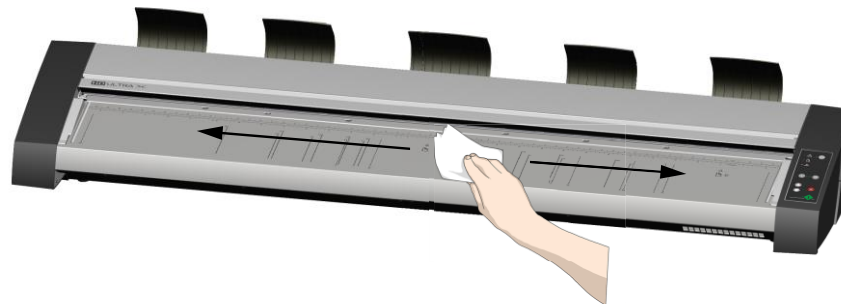
クリーニング

スキャナの清掃

4 給紙台を清掃する

スキャナの外側および内部を軽く拭き、輸送中に付着した埃を取り除きます。清掃は給紙台から始めてください。

給紙台とは、挿入口の前の平らな面のことです。原稿とともに埃がスキャンエリアに入り込まないように、給紙台をていねいに拭いてください。

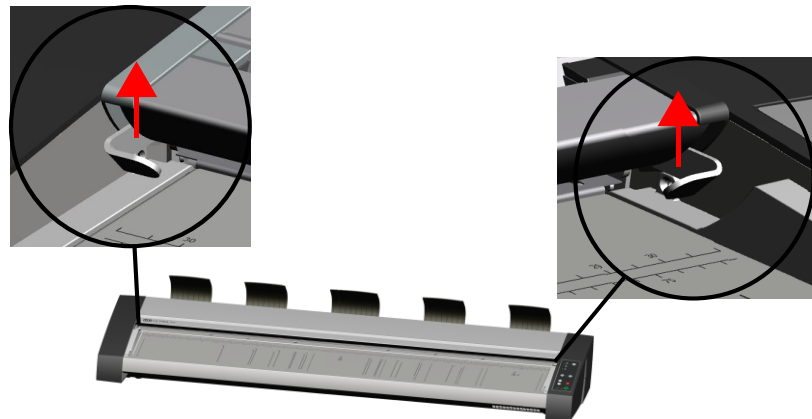


スキャナの清掃

5 トップカバーリリース用のラッチでトップカバーを開く

スキャナのカバーの両側にあるラッチを解除し、トップカバーを上を開きます。

- スキャナの前側に立って作業します。
- 両側のラッチの下に指を入れてラッチを上を引き上げて解除します。

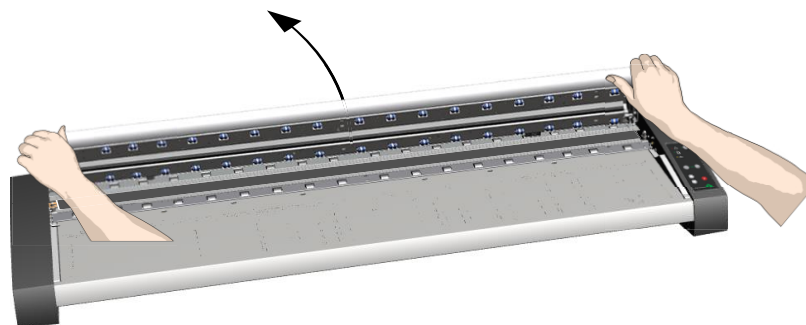


スキャナの清掃

6

スキャナのカバーを開く

- ラッチが解除されるとトップカバーが上方向に開きます。
- カバーを完全に後方に開き、スキャンエリアを露出します。



スキャナの清掃

7

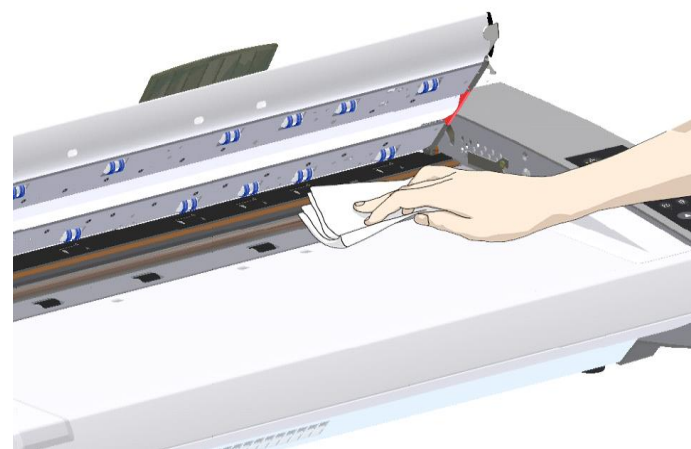
内部のスキャンエリアを清掃する

乾いた糸くずの出ない布で、ガラスプレートの埃を軽く拭き取ります。

乾いた布では落ちない汚れが付着している場合は、このガイドの「メンテナンス」に記載されているスキャンエリアの入念な清掃方法を参照してください。

スキャンエリアの清掃が完了したら、カバーを閉じます。

- トップカバーの上部に手を当て、カチッという音がしてラッチがかかるまで押し下げます。
- カバーを軽く上げてみて完全に閉まっていることを確認します。



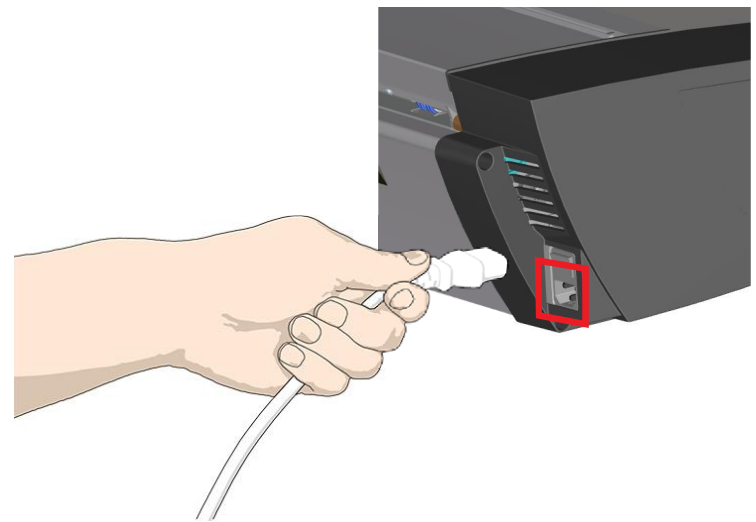
接続

電源ケーブルの接続

8

電源ケーブルをスキャナに接続する

スキャナの電源ケーブルをスキャナの主電源接続ソケットに接続します。主電源接続ソケットはスキャナの背面にあります。



電源ケーブルの接続

9

スキャナの電源ケーブルをコンセントに接続する

スキャナの電源ケーブルの電源プラグをコンセントに差し込みます。



警告:スキャナには3線(ピン)アース端子付きタイプのプラグが付いています。プラグがコンセントに入らない場合は、電気技師を呼んでプラグまたはコンセントを交換し、電源を確実にアース接続してください。



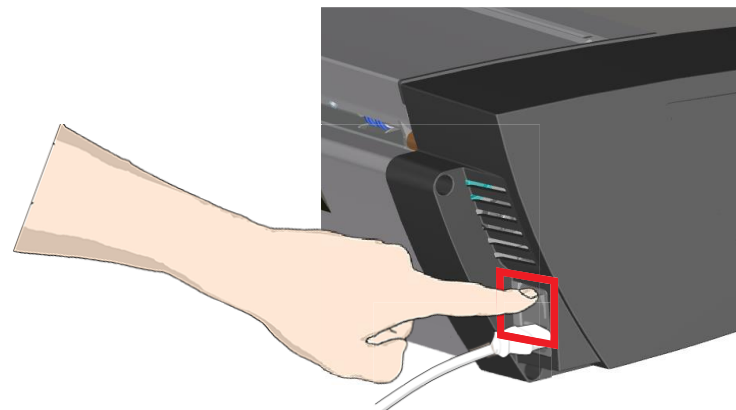
警告:アース付きタイプのプラグをアース付きでないプラグに変更しないでください。

スキャナの電源

10

スキャナの電源を入れる

スキャナの背面にある主電源スイッチをオンにします。



ケーブルの接続

11

スキャナに USB インタフェースケーブルを接続する

スキャナのインストールおよび認証は、USB 接続を使用した方が簡単に行えます。

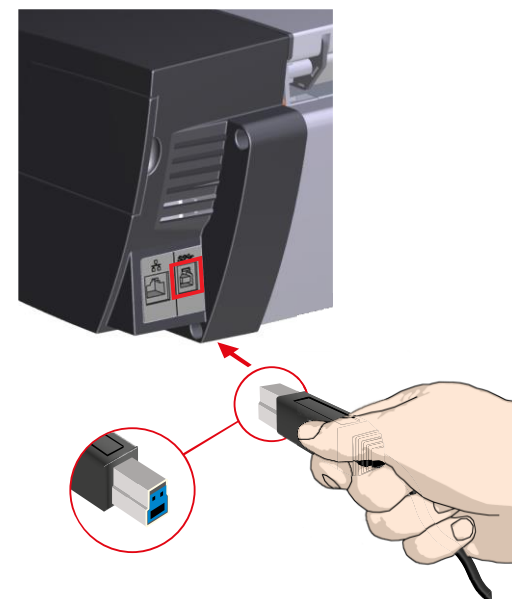
1. インターフェース接続パネルは、スキャナの背面の向かって左側にあります。スキャナの USB ソケットの内側は青色です。
2. B コネクタ (正方形のコネクタ) をスキャナの USB ポートに接続します。



注記： インストールウィザードでは、インストールプロセスの後半でギガビットインターフェースをインストールして認証するように指示されます。この段階ではまだ接続しないでください。



規則について： このスキャナは、EMC 規格 EN55022、および FCC 規則第 15 章に準拠することが試験により確認されています。規格に準拠するために、スキャナに付属のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。



WIDeSystem スキャナの検出

USB ケーブルを PC に接続する

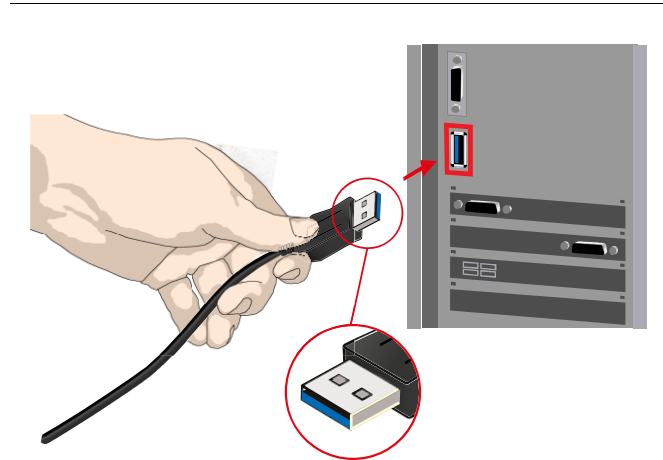
12

USB インターフェースケーブルを PC に接続する

1. PC 側で、WIDeSystem が実行されていることを確認します。システムトレイに WIDeSystem のアイコンが表示されているか確認します。
2. WIDeSystem が実行されていない場合は、[プログラム]メニューから WIDeSystem を選択し、手動で起動してください。
3. 前の手順の指示に従って、USB ケーブルがスキャナに接続されていることを確認します。
4. A コネクタ (平たいコネクタ) を PC の USB ポートに接続します。



注記： PC の背面にある USB ポートを使用することをお勧めします。PC のモデルによっては、前面の USB ポートを使用するとパフォーマンスに影響することがあります。



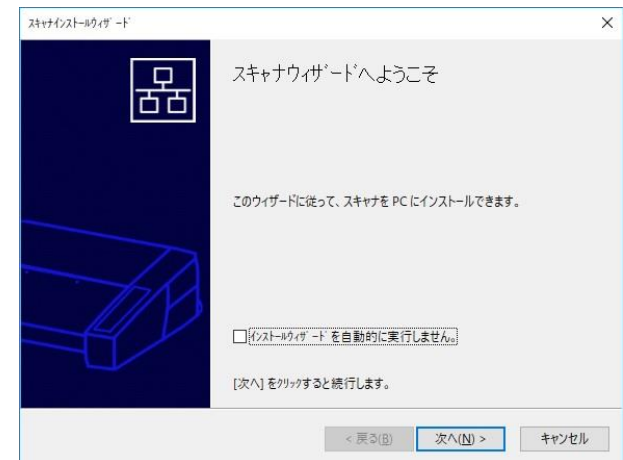
ソフトウェアインストールウィザード

スキャナーのインストール

13

インストールウィザードの起動

1. PC がスキャナを検出し、スキャナインストールウィザードを起動します。
2. インストールウィザードが起動しない場合は、次のいずれかを実行します。
 - スキャナと PC の USB 接続を一旦外し、再度接続します。
 - USB ケーブルがスキャナと PC にしっかりと接続されていることを確認します。
 - PC 上の別の USB ポートを使用します。
 - USB がスキャナの背面にある USB 用のポート (イーサネットポートなどではなく) に接続されていることを確認します。



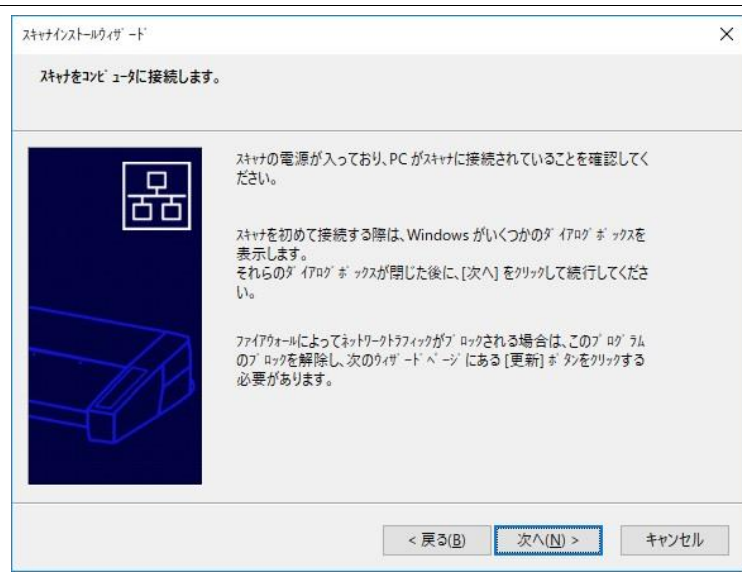
スキャナーのインストール

14

WindowsPC へスキャナをインストールする

1. [次へ] をクリックし、画面に表示される指示に従って、PC にスキャナをインストールします。
2. スキャナインストールプロセスの大部分は自動的に実行されます。
3. 完了メッセージが表示されるまで待ちます。
4. 完了したら、[次へ] を押します。

! 重要: インストール中にソフトウェアにネットワークへのアクセスを許可するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、必ず[はい]を選択してください。



省電力モード

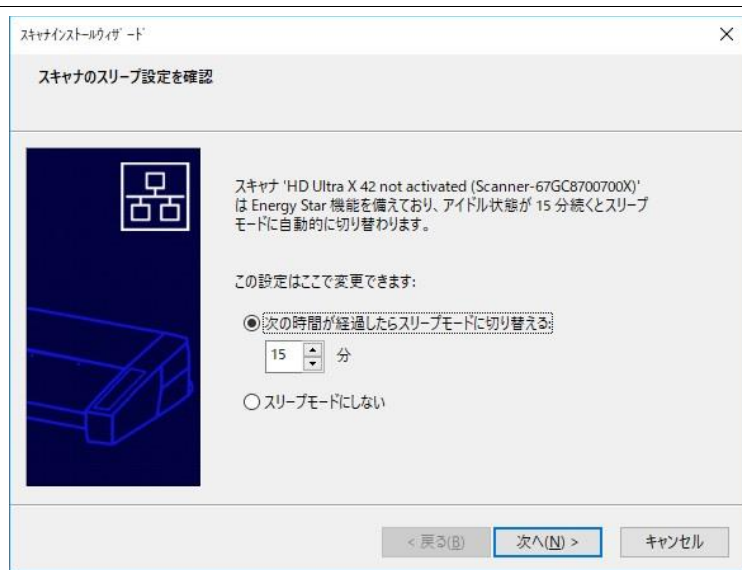
スキャナーのインストール

15

国際エネルギースタープログラム (Energy Star) の待機時間を設定する

スキャナは事前に設定された待機時間（スキャナが動作していない時間）が経過すると自動的にスリープモードに切り替わるように設定されています。エネルギースター準拠のデフォルト待機時間は15分です。

頻繁にスリープモードに移行しないように待機時間を長くすることができません。待機時間の設定を変更するか、[スリープモードにしない]を選択してスリープモードへの自動切り替えをオフにしてください。



スキャナのライセンス認証

スキャナのライセンス認証

16

スキャナのライセンス認証を行う

このスキャナを使用するためには、まずライセンス認証を行う必要があります。スキャナ認証ウィザードの指示に従ってください。



メモ: スキャナの販売元が事前にライセンス認証を行っている場合もありますがそうでない場合、スキャナの背面にあるネットワークインターフェイスを介してインターネットに接続して認証を行います。スキャナが事前に認証されている場合、ウィザードはこの手順を省略します。

ライセンスキーと認証コードについて:

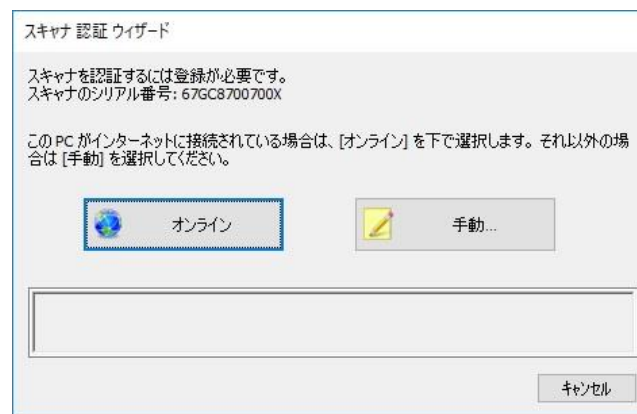
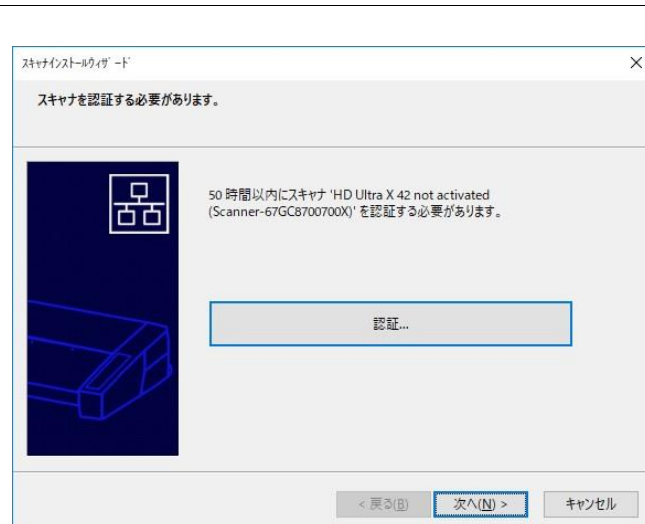
- **オンライン**認証にはライセンスキーが必要です。ライセンスキーはスキャナに付属し、スキャナをインターネットに接続するのに必要です。ライセンスキーをお持ちでない場合は、販売店にお問い合わせください。
- **手動**でライセンス認証を行う場合には**認証コードが必要になります**。認証コードは、販売店から入手、または Contex Licensing ウェブサイトで作成することができます。詳しくはこのセクションの手動認証の手順を参照してください。

スキャナのライセンス認証を行うには:

「認証」ボタンをクリックして認証ウィザードを起動します。PC がインターネットに接続されている場合はオンラインを選択し、それ以外の場合は、手動オプションを選択します。



重要: インストール中にソフトウェアにネットワークへのアクセスを許可するかどうかを確認するメッセージが表示された場合は、必ず[はい]を選択してください。



オンラインでのスキャナのライセンス認証

スキャナのライセンス認証 - オンライン

17

オンライン認証

ライセンスキーを用意してください。

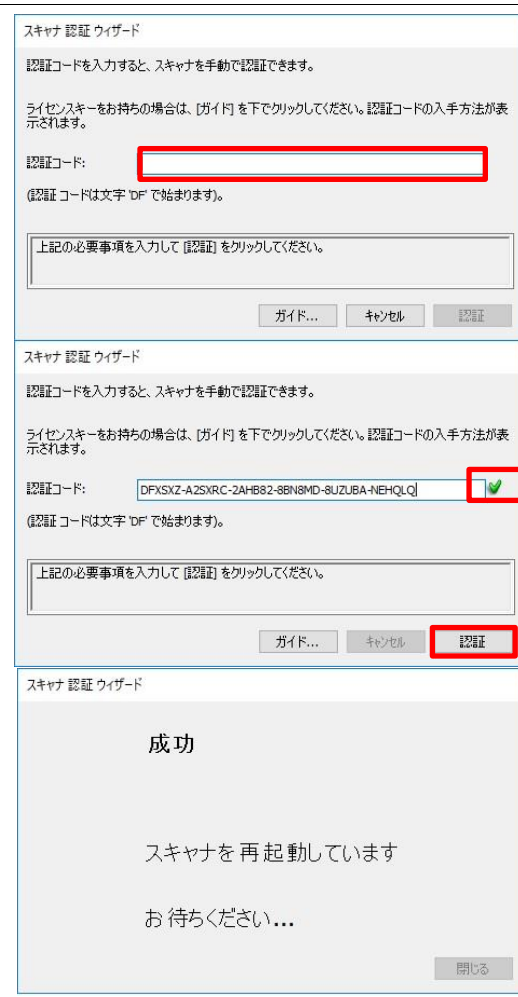
認証方法として [オンライン] を選択すると、右（一番上）のウィザード

画面が表示されます。

1. 「ライセンスキー」にライセンスキーを入力します。
2. ライセンスキーを入力すると、すぐにキーが認証され、有効なキーであれば、右図の赤で示されているように緑色のチェックマークが表示されます。
3. 続行するには、「認証」 ボタンを押してください。

ライセンス認証が正しく行われたことを示す [成功] ダイアログが表示されます。

スキャナは自動的に再起動します。



手動認証

スキャナのライセンス認証 - 手動

18

オフラインでのライセンス認証（手動認証）

インターネットに直接接続していない場合でも手動でスキャナのライセンス認証を行えます。下記の2つの情報をインターネットに接続された別のデバイス、またはコンピュータに入力します。

ライセンスキー：ライセンスキーをお持ちでない場合は、販売店に問い合わせてください。

ハードウェア ID：ウィザードによってハードウェア IDが表示されます。このIDを使用するか、またはスキャナの背面にあるシリアル番号（S/N）を使用することができます。

別のインターネットデバイス（電話またはその他のPC）

www.licenseactivate.com にアクセスします。

1. スキャナのハードウェア ID、またはシリアル番号を入力します。
2. ライセンスキーを入力します。
3. 「認証」ボタンを押して認証コードを生成し、電子メールアドレスに送信するか、またはそれを書き留めます。

スキャナ（ウィザード）

4. スキャナ認証ウィザードの「コード」に認証コードを入力し、[次へ]をクリックします。
スキャナが認証されました。



スキャナのインストール - ネットワーク名の変更

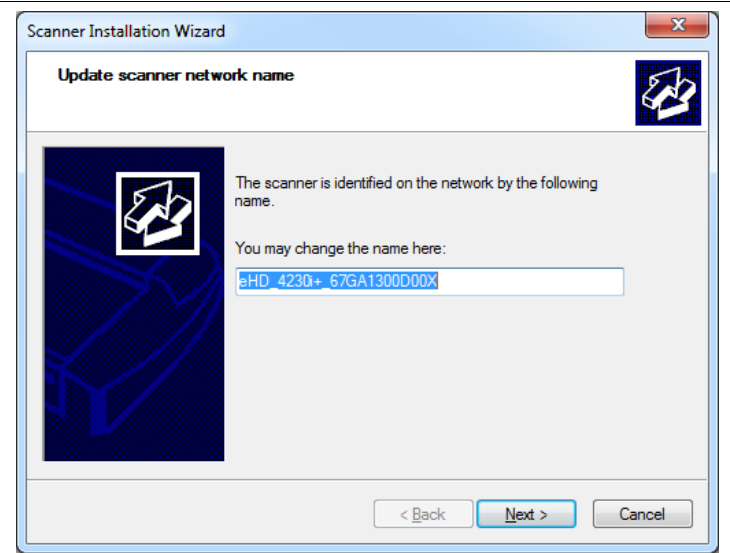
19

スキャナのネットワーク名を変更する (任意)



注記: 認証中にライセンス取得済みのイーサネットをサポートするスキャナが検出された場合にのみ表示されます。

スキャナのデフォルト名を変更することが必要になる場合があります。スキャナの名前を変更し、[次へ]をクリックします。



インストール

スキャナのキャリブレーション

スキャナのインストール

20

スキャナを補正する（カメラ調整）


スキャナの輸送中にカメラの位置がずれることがあるため、位置調整を再度行う必要があります。

1. 「補正」をクリックしてウィザードを起動します。
2. ウィザードの指示に従ってカメラの調整を行います。



注記：内部のスキャンエリアやガラスプレートを清掃していない場合は、前のインストール手順に従って清掃を行ってください。

3. スキャナに付属のキャリブレーションシートを挿入します。
4. シートの矢印をスキャナの中央の矢印に合わせます。
5. 「カメラ調整」ボタンをクリックします。

キャリブレーションが正常に完了すると、ウィザードがチェックマーク  を表示します。

キャリブレーションシートを取り外します。



注記：詳細については、スキャナのメンテナンスとキャリブレーションガイドを参照してください。

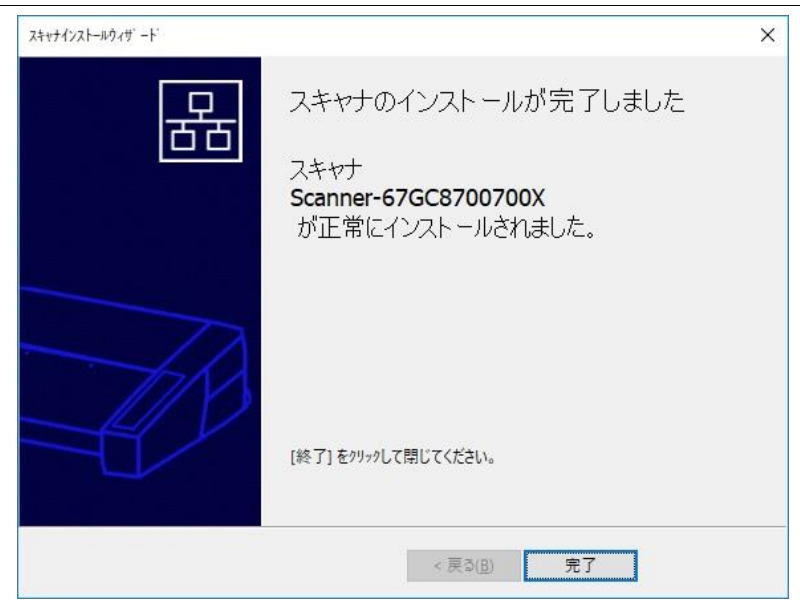


スキャナのインストール

21

インストール完了

スキャナが正しくインストールされると右図のメッセージが表示されます。



インストール


ネットワーク接続


ギガビットインタフェースの有効化


22


ネットワークへの接続 (LAN)

スキャナの機能を最大にするためにはギガビットイーサネットへの接続が必要になります。

1. PC と接続している USB ケーブルを外します。
2. 付属のギガビットケーブルをスキャナ背面のイーサネットインターフェイスソケットに接続します。
3. ギガビットケーブルのもう一方のコネクタをネットワーク (LAN) に接続します。
4. WIDsystem を開きます。まだ開いていない場合は、システムトレイにある WIDsystem のアイコン  をダブルクリックします。

1. スキャナリストの更新ボタン  をクリックします。
ウィザードによってネットワーク上のスキャナが検出されます。

1.  **注記**：認可されたギガビットケーブルのみを使用してください。それ以外のケーブルや通常の LAN ケーブルを使用した場合は、仕様を達成するパフォーマンスが保証されません。

2.  **注記**：ギガビット対応のスキャナでありながらギガビット接続を行わない場合、WIDsystem から警告が表示されます。Context は、最高のスキャナ性能を実現するギガビットネットワークを推奨します。スキャンにはインターネット接続は必要ありません。

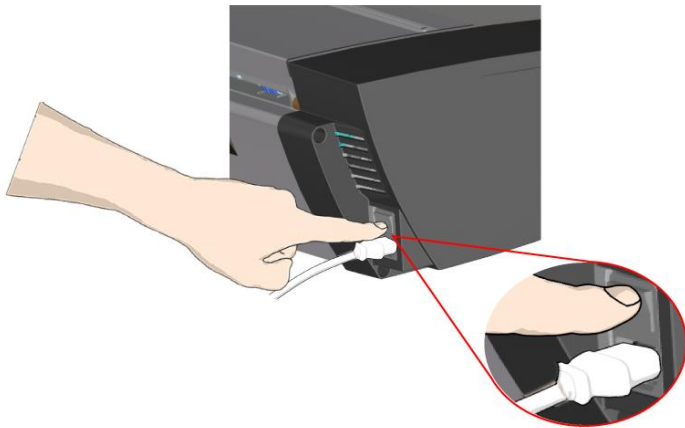


スキャナの電源オン/オフ

電源のオン/オフ

主電源スイッチ

主電源スイッチはスキャナ背面の右側にあります。スイッチの上側（“I”と書かれている側）を押すと、主電源がオンになります。スイッチの下側（“0”と書かれている側）を押すと、主電源がオフになります。



スキャナ背面の主電源スイッチ。
オンにする場合は“I”を押し、オフにする場合は“0”を押します。

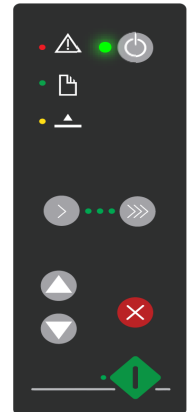
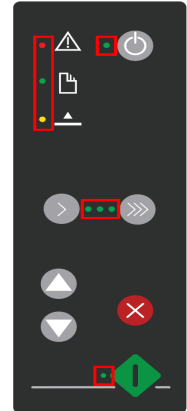
スキャナのセルフテスト

スキャナの電源をオンにすると、短いセルフテストが実行されます。セルフテストの実行中はパネル上の3つのLEDが点灯します。

スキャンの準備完了

電源LEDが緑に変わると、スキャナはスキャン可能な状態になります。スキャナはウェイクアップモードで起動します（次のセクションを参照）。

主電源スイッチをオンのままにし、スキャナの電源をスリープモードとウェイクアップモードで制御することができます。

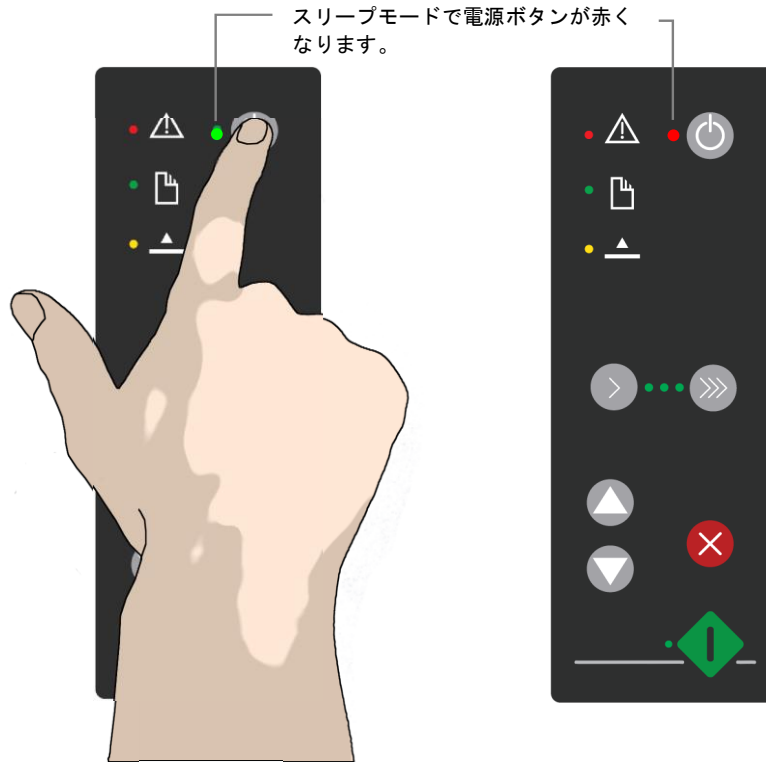


スキャンの準備ができた状態のパネル

スキャナの電源オン/オフ

ウェイクアップモードとスリープモード

主電源スイッチをオンにしたままで、スキャナの電源をスリープモードとウェイクアップモードに設定できます。スリープモードは省電力モードです。スリープモードでは、スキャンを行うことはできません。ウェイクアップモードは、完全な電源オンの状態であり、スキャナが動作可能となります。



スキャナは、以下の場合にウェイクアップモードからスリープモードに切り替わります。

- 事前に設定された待機時間が経過したとき（「待機時間後の自動電源オフ」を参照）
- 電源ボタンを3秒以上長押ししたとき

スキャナは以下の場合にスリープモードからウェイクアップモードに切り替わります。

- 原稿がスキャナに挿入されたとき
- パネルでボタンが押されたとき

スリープモードの利点:

レディ状態への迅速な移行: セルフテストをスキップして、即スキャンが可能な状態になります。

便利: 原稿をスキャナに挿入してスキャンしようとするだけで、オンに切り替わります(ウェイクアップモードに移行する)

省電力: アクセシビリティを損なうことなくエネルギーを節約できます。

スキャナの電源オン/オフ


自動スリープモード

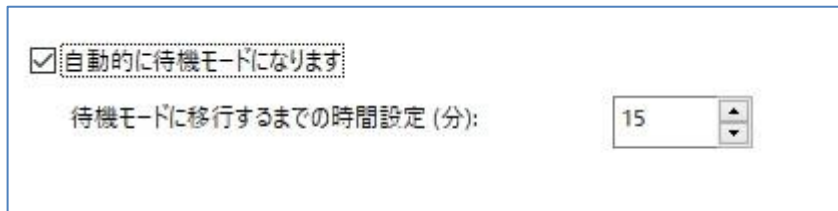
デフォルトで 15 分間に設定されています。



注記： インストール中にアイドル時間を変更するように求められます。

スリープモードオプションを設定するには：

1. WIDEsystem アイコン  をダブルクリックして WIDEsystem を開き、[タイマー] タブを選択します。
2. [スリープモードを自動的に入力] オプションをオンにします。
3. アイドル時間を分単位で入力します（スリープモードに入る前のスキャナの非アクティブ時間）
4. 「適用」 ボタンを押します。



自動的に待機モードになります

待機モードに移行するまでの時間設定 (分):

WIDEsystem プログラムのスリープモードオプション：[タイマー] タブ



注記： 自動スリープは、無効にすることができます：

- 電源ボタンまたは用紙の挿入を使用して、スキャナをスリープ状態から復帰します。
- 電源ボタンを 3 秒以上長押しして、スキャナをスリープ状態にします。

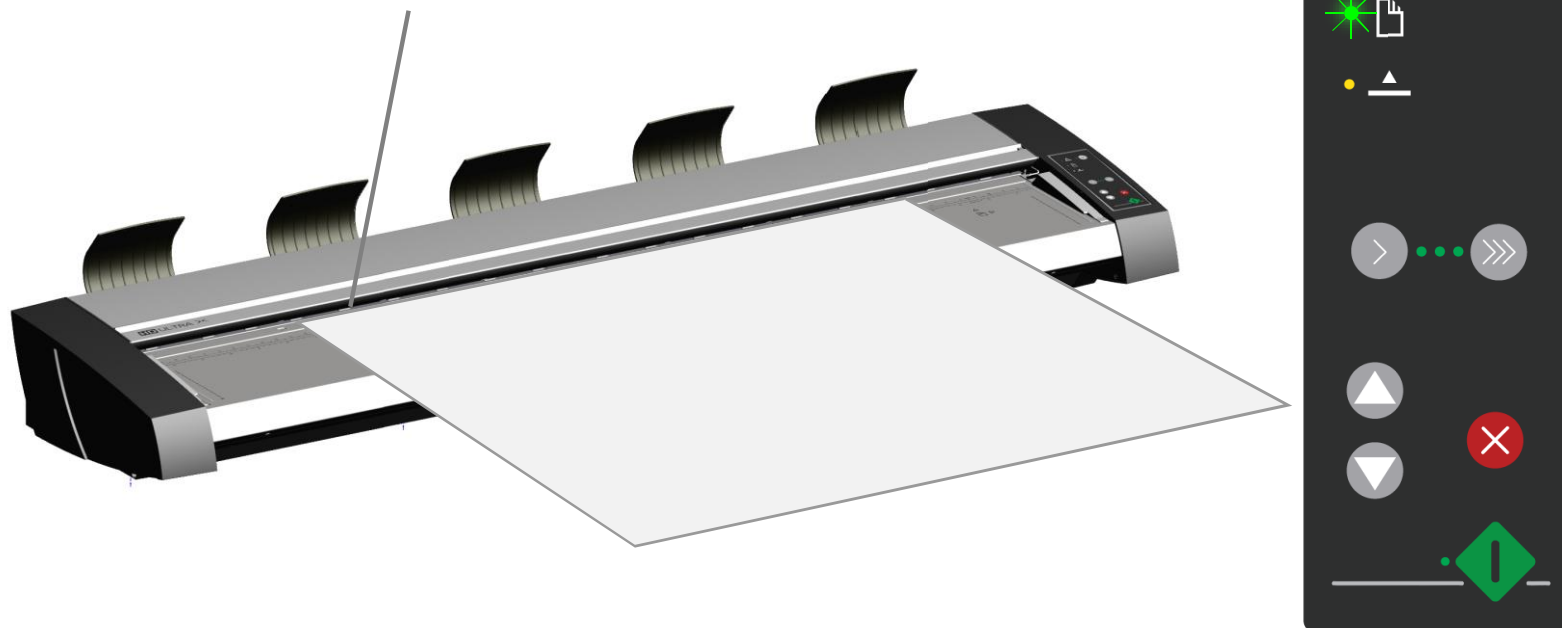
スキャナに原稿を挿入する

原稿中央合わせ

原稿は印刷面を下にしてスキャナの原稿挿入口に挿入します。内部のローラーに接触するように原稿の先端を漏斗型の挿入口に押し入れると、数秒後にスキャナが原稿を検知し、原稿をスキャナに取り込みます。この時、原稿から手を離します。原稿の給紙手順と特別な給紙機能について以降のセクションで詳しく説明します。

原稿の印刷面を下向きにし、原稿挿入口の内部にあるローラーに接触するようにセットします。

原稿が挿入されると用紙ボタンが緑色に点滅



スキャン領域（用紙サイズ）は、スキャナで自動的に設定、またはオペレータによって選択された用紙サイズになります。

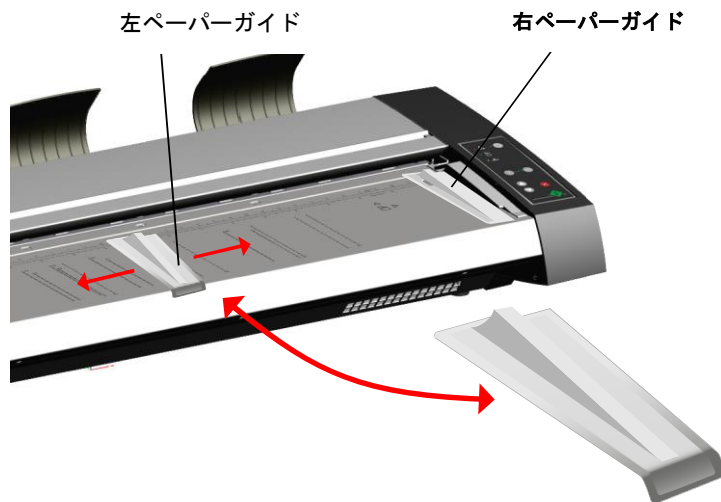


注記： 厚手メディアの給紙方法については、このガイドの「厚手メディアのスキャン」を参照してください。

原稿右合わせ

左側のペーパーガイドは、挿入する原稿の幅に合わせて移動できます。右側のペーパーガイドは固定されているので動かさないでください。ただし、オーバーサイズスキャン(次のセクションを参照)の場合は右側のペーパーガイドを取り外すことができます。

中央合わせで原稿を挿入するときは原稿の先端が原稿挿入口にあるローラーに接触するまでしっかりと押しこみます。



2つのペーパーガイドの主な目的:

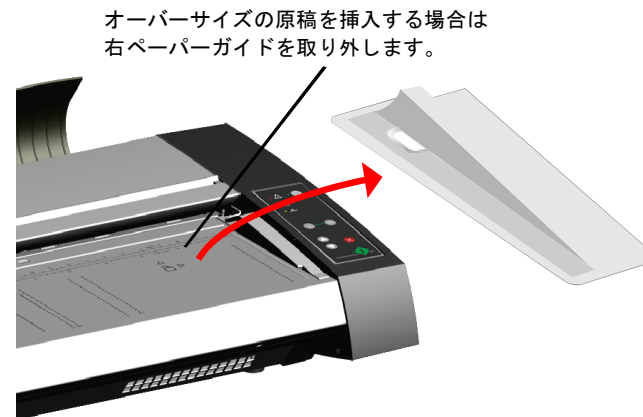
- まっすぐ挿入されるように原稿の左側を支える
- バッチスキャンでの高速給紙に素早く対応

原稿の幅に合わせて調整するには:

- 原稿をセットし、右端を右側のペーパーガイドに合わせます。
- 左側のペーパーガイドを原稿の左端に合わせます。

オーバーサイズ原稿のスキャン

原稿最大幅を少し超えてしまい、原稿をスキャナに挿入し難い場合、右側のペーパーガイドを取り外すことにより、挿入口を数センチ広げることができます。左のペーパーガイドも外します。



オーバーサイズの原稿を挿入する場合は右ペーパーガイドを取り外します。

自動給紙

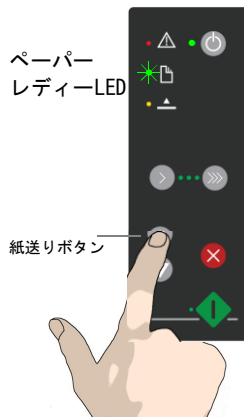
自動給紙では、原稿挿入口に原稿を挿入すると同時にスキャナが給紙を開始します。自動給紙は特にバッチスキャンの作業に役立つ機能です。次の「高速給紙」も参照してください。

- スキャンアプリケーションで[用紙処理]オプションの[自動給紙]が選択されていることを確認します。
- 原稿がローラーに当たり、ペーパーレディーのLED が緑に点灯するまで、原稿を挿入口に差し込みます。
- スキャナが自動的に原稿を引き込み、スキャン開始位置まで移動します。スキャンアプリケーションでディレイタイムを設定できます。ディレイタイムとは、スキャナが原稿を引き込むタイミングを調整する設定です。

手動給紙

手動給紙では、原稿の給紙をユーザがコントロールできます。原稿送りボタンを押すと、スキャナが原稿を取り込みます。1枚ずつスキャンする場合、デリケートな原稿をスキャンする場合、原稿を給紙する前に位置を整える必要がある場合などは手動給紙に設定して作業します。

- スキャンアプリケーションで[用紙処理]オプションの[手動]が設定されていることを確認します。
- 原稿がローラーに当たり、ペーパーレディーLED が緑に点灯するまで、原稿を挿入口に差し込みます。
- 一方の手で原稿を支え、もう一方の手でスキャナの原稿送りボタンを押し続けます。
- 原稿がスキャン開始位置まで移動します。



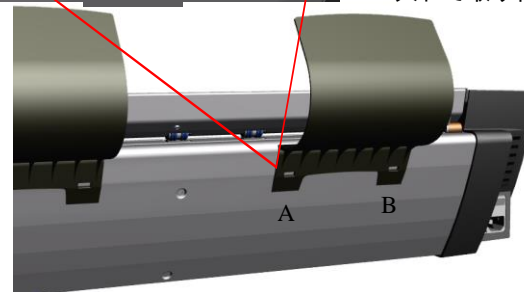
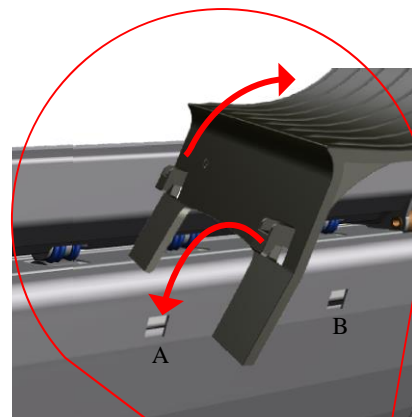
ペーパーリターンガイド

スキャンされた原稿がペーパーリターンガイドによって正面に向かって排出されるため、すばやく原稿を回収できます。左側のペーパーリターンガイドは、原稿の幅に合わせて位置を調整できます。

- スキャンソフトウェアで、背面から用紙を排出するようにスキャナを設定します。
- 左側のガイドの調整：ペーパーリターンガイドは、フックをスキャナ背面の穴にはめ込むことによって取り付けられています。ガイドを上を引き上げ、フックを取り付け穴から外すことができます。



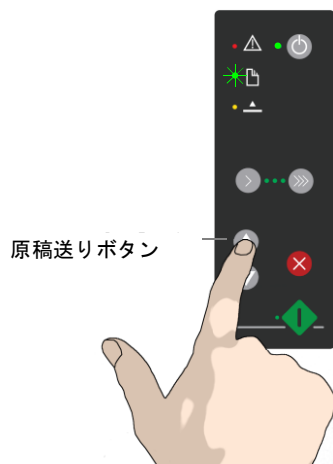
注記：厚手または硬いメディアをスキャンするときには、ペーパーリターンガイドを外してください。



スキャン後の原稿の取り出し

原稿巻き戻しのボタンを押すと原稿が給紙台に戻ります。
緑のペーパーレディーLEDが点滅します。

原稿をスキヤナの背面から取り出す場合は、**原稿送りボタン**を押します。緑色のペーパーレディーLEDが点滅します。



高速給紙

高速給紙は、時間の節約に役立つバッチスキャン用の給紙オプションです。高速挿入オプションを選択すると、原稿は最初のローラーの所まで引き込まれ、スキャンはそこから開始されます。高速給紙オプションは、スキャンアプリケーションで選択でき、自動給紙、または手動給紙の選択ができます。

低速給紙

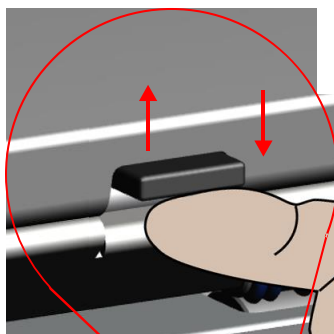
低速給紙とは、給紙およびスキャンの速度を低下させることを意味します。このオプションは手動給紙と自動給紙のどちらでも使用できます。古い原稿、薄手の原稿、カールや折り目があるために紙詰まりを起こしやすい原稿などのスキャンに適しています。

原稿圧の調整：薄手メディアの場合

原稿の搬送時に原稿に加わるプレッシャーを調整することができます。新聞やトレーシングペーパーのような腰の弱い原稿に有効です。

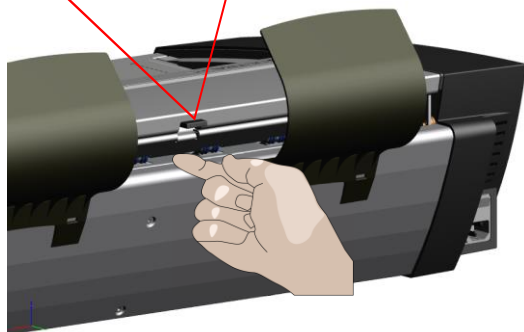
下記の手順で薄手およびデリケートな原稿への圧力を低下させます。

- 原稿を挿入する前に、スキャナの背面にある原稿圧調整ツマミを押下げて原稿に加わる圧力を下げます。
- スキャンが終わったら、必ず原稿厚調整ツマミを元の位置に戻します。



アップ：通常的位置

ダウン：原稿圧を低く設定する



入力サイズの設定

入力サイズはスキャンの範囲を定義します。Next image スキャンソフトウェアから下記の3つの方法で設定することができます。

自動サイズ検出：スキャナが自動的に原稿の端部を検出し、入力サイズを計算します。

標準サイズ：スキャナの給紙台に定型サイズが表示されています。この表示から原稿に適合する標準サイズを特定し、アプリケーションの[入力サイズ]ダイアログでそのサイズを選択します。

手動入力（非標準サイズの場合）：原稿のサイズを測定するには、スキャナの挿入口のすぐ上にあるルーラを使用します。測定した幅をアプリケーションの[入力サイズ]設定ダイアログの[幅]設定フィールドに入力します。[長さ]は、実際に測定して設定することもできれば、自動長さ検出を選択することも可能です。

バッチスキャン

同じスキャン設定を必要とする複数の原稿をスキャンする場合は、複数のスキャンジョブを1つにまとめてバッチスキャンを実行できます。バッチスキャンを選択するとオペレータは給紙を行うだけで後はスキャナが各種設定を原稿に施してスキャンします。

バッチスキャンの手順

- バッチのスキャン設定（サイズ、タイプ、イメージ調整など）を行います。この設定は、バッチに含まれるすべての原稿に適用されます。
- スキャンソフトウェアでバッチモードを設定します。これによりスキャナは原稿が給紙されるとすぐにスキャンを開始します。ユーザが手動でスキャンを開始する必要はありません。
- [自動給紙]、または[手動給紙]を選択します。
- 最初の原稿を挿入します。
- スキャンボタンを押します。

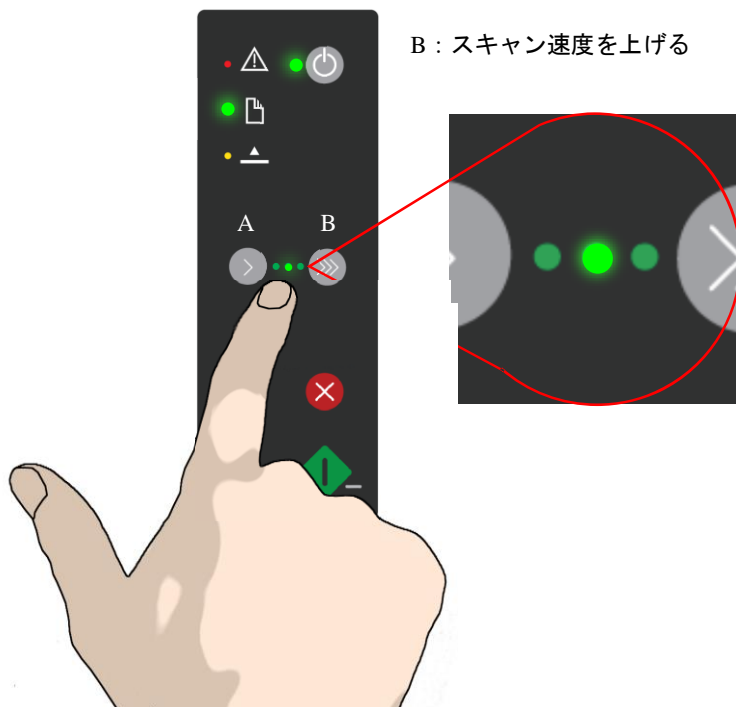
スキヤナ速度制御

デリケートな原稿をスキャンするときはスキャン速度を遅くすることをお勧めします。

- ソフトウェアで[低速給紙]を選択します。
- キーパッドの速度コントロールでスキヤナを減速します。

A: スキャン速度を下げる

B: スキャン速度を上げる



速度表示


ボタン A、またはボタン B を押すと、スキャン速度が低下または増加し、緑色の LED ランプが速度を示すインジケータとして点灯します。ソフトウェアでスキャン速度を設定してもここで設定した速度が適用されます。

速度インジケータ

緑色の LED ランプがボタン B 側で点灯している場合は高速でのスキャン設定であることを示します。スキヤナに電源が入ったときはこの設定になっています。ボタン A を押すと、遅くなります。ボタン A をもう一度押すとキーパッドで行える最小の設定です。

この設定はスキヤナの電源がオフになったとき、または省電力モード（スリープモード）になったときに解除されます。

WIDEsystem によるスキャナの状態確認

WIDEsystem には、スキャナをモニタリングし、動作状態について報告するアプリケーションが含まれています。システムトレイにある WIDEsystem のアイコンをダブルクリックすると WIDEsystem の制御インターフェースを開くことができます。



WIDEsystem
プログラム制御
インターフェース

WIDEsystem のアイコンがグレーの場合、スキャナがオフ、またはスリープモードになっていることを示します。黄色のアイコンはスキャナが接続されていることを示します。マウスポインタをアイコンに乗せると現在のスキャナの状態が確認できます。

WIDEsystem アイコンをダブルクリックすると、より詳細なスキャナの情報が表示されます。

ライセンス認証とスキャナのアップグレード

[ライセンス] タブをクリックします。ライセンス認証やアップグレードには有効なライセンスキーが必要になります。

エラーメッセージおよびログを表示する

ランタイムエラーは発生すると直ちに画面に表示されます。[ステータス] タブと [情報] タブを開き、ログとエラーメッセージを確認できます。

スキャナデバイスの情報を表示する

[情報] タブを開くとファームウェア、及びハードウェアのバージョン情報を確認できます。

新しいファームウェアをインストールする

コンピュータ上のフォルダに新しいファームウェアをダウンロードし、スキャナのアイコンを右クリックします。「詳細オプション」をクリックし、「スキャナのファームウェア更新」をクリックします。

システムハードウェアスキャンを開始する

インターフェースを更新します。スキャナのアイコンを右クリックし、「詳細オプション」をクリックし「ハードウェアバスの再スキャン」を選択します。

ネットワーク上の他の PC とシェアできるようにスキャナを設定する

[ネットスキャン] タブ内で設定を行います。インストールの項目で [インストール LAN でスキャナを共有する] を参照してください。

ネットワーク上のスキャナにアクセスできるように Nextimage を設定する

「ネットスキャン」タブ内で設定を行います。

WIDEsystem のオンラインヘルプを表示する

WIDEsystem のトラブルシューティングやスキャナでの使用方法を確認できます。WIDEsystem を開き、F1 キーを押します。

スキャナのキャリブレーションウィザードを起動する

スキャナのアイコンを右クリックし、キャリブレーションを選択します。

メディア厚自動調整機構(OTAC)

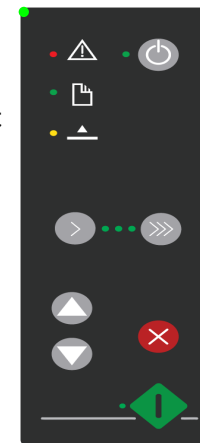
ボール紙、パネルボードなどの厚手メディアに印刷、または貼付された文書や図面をスキヤンすることが必要となる場合があります。このような原稿をスキヤンするには、トップカバーを原稿の厚さに合った高さまで上げて挿入口を原稿の厚さに合わせる必要があります。

このスキヤナには、つまみを上げ下げしてトップカバーの高さを調整できるメディア厚自動調整機構(OTAC)があります。スキヤナの原稿挿入口の高さ(トップカバーの高さ)を2mm~16mmの範囲で調整できます。厚さが2mmまでの原稿は、トップカバーを完全に下げた状態(標準位置)でスキヤンできます。原稿の厚さが2mmを超える場合は、OTAC機能を使用する必要があります。

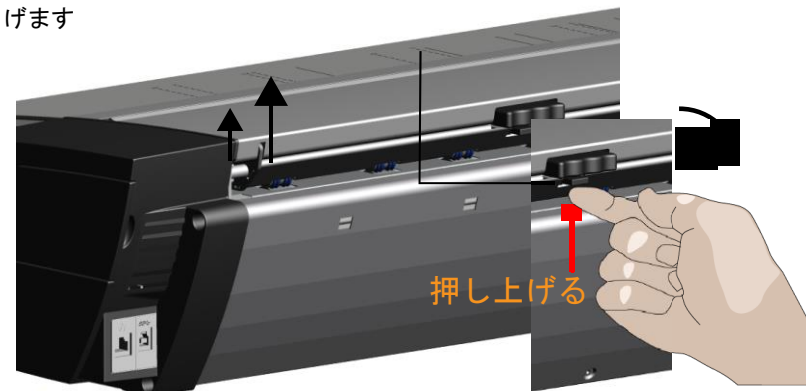
OTAC を上げる

- すべてのペーパーリターンガイドを取り外します。スキヤナから離してよせておきます。
- キーパッド側のトップカバーの背面にある大きなつまみの下にある小さなレバーを押し上げます。カバーを最大位置まで押し上げ、原稿挿入口の高さを16mmに上げます。黄色のLEDが点灯します。
- 厚手の原稿を中央に合わせて真直ぐスキヤンできるよう均等に挿入します。
- 次のページでOTACを下げる方法を説明します。

OTACが上がっているときは黄色が点灯しています



下図のようにレバーを押し上げて、OTACを最高のポジション(16mm)に上げます



厚手のメディアのスキヤンする

厚手のメディア (OTAC)

OTAC を下げる

スキヤンを行う前に OTAC を完全に上げた位置（前のセクション）から厚いメディアの高さに合わせてトップカバーを下げます。

厚いメディアに合わせて OTAC を下げる（トップカバーボタン）

トップカバーの背面、キーパッド側にある2つのツマミのうち、上のツマミを手前に押し離すと1~2mmのステップで OTAC を下に下ろします。ツマミが動かなくなるまで同じ作業を繰り返します。OTAC は、厚いメディアに最適な圧力を自動的に検知します。

スキヤン入力サイズ

スキヤンする画像が全て入るサイズをソフトウェアで設定します。

スキヤンが完了したら、[進む] ボタンを押して原稿を取り出します。

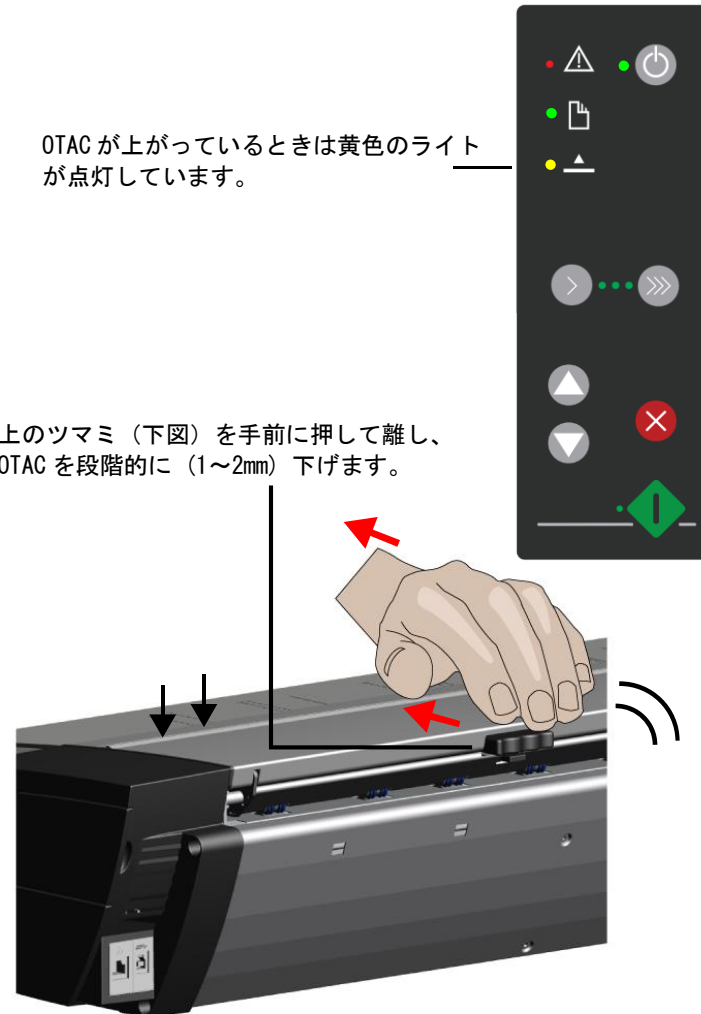
OTAC を薄いメディアのスキヤンの高さに合わせる

両手でトップカバーの両端を上から止まるまで押し下げます。

スキヤナ前方に立って、スキヤナ背面のツマミ（右図）を指先で手前に1、2回押し離します。これで OTAC が完全にロックし、薄いメディアのスキヤンの準備ができました。黄色の「OTAC」インジゲーターライトの点灯がオフになります。

OTAC が上がっているときは黄色のライトが点灯しています。

上のツマミ（下図）を手前に押し離し、OTAC を段階的に（1~2mm）下げます。



厚手のメディアのスキャンする

厚手メディア位置でスキャンするときの注意点

厚手メディアに合わせ、OTAC を調整した後は必ずトップカバーを通常の位置に戻してください。トップカバーが通常の位置にセットされなければスキヤナの自動ステッチメンテナンスは行われません。



重要な注意: ステッチ調整は、OTAC を下げた標準位置で動作します。スキヤナの電源を入れたときにステッチのメンテナンスが動作するように常に OTAC を下げた状態にしてください。

厚手原稿を手で支える

大きな厚手の原稿をスキャンするときには、原稿が折れ曲がらず安定したスキャンが行われるように原稿を支える必要があります。原稿の端を支えながら原稿をスキヤナに挿入してください。

厚手の原稿をスキャンする時のスキャン速度

このスキヤナは標準位置において最適な速度で動作します。スキヤナが拡張厚位置にあるときには（黄色のライトが点灯し、トップカバーが上げられているとき）オペレータが正しく厚手の原稿を取り扱うことができるようにスキャン速度が自動的に低下します。

ステッチパラメータの変更

厚手で硬い原稿は柔軟な素材でないために、ガラスプレートから少し離れたところで読み取られることがあります。そのため、カメラとカメラの間で画像の「ステッチ」のずれ（ピクセルの重なり）が発生することがあります。このような場合には、ステッチパラメータの変更が必要になります。ステッチパラメータは、スキヤナアプリケーションを使用して次の方法で変更できます。

厚手の原稿をスキヤナに挿入し、スキヤナアプリケーションを使用して画像をスキャンします。

- 結果をビューワで確認し、カメラ移行エリアにピクセルの重なりや欠落がないか調べます。
- Next image のステッチ設定ダイアログでステッチの値を調整します。
- カメラ間のエリアの画像にズレなどが見られなくなるまでスキャンと調整を繰り返します。

エッジ部の歪みへの対処

厚手原稿のスキャンでは、原稿の先端が出口のローラーに触れたときや後端が入口のローラーにかかっているときに、スキャン結果に歪みが生じることがあります。この問題を防止するために、スキヤナが拡張厚位置にあるときには、デフォルトで先端および後端がスキップされます。先端および後端のスキップは、スキヤナアプリケーションの設定ダイアログでオフにできます。

メンテナンス

メンテナンス

スキャナのメンテナンスについて

スキャナのメンテナンスを定期的に行うことでスキャナの最適な性能が保証されます。メンテナンスには、次の3つの基本的な作業があります。

- **スキャナのクリーニング**

スキャナを汚れのない状態に保ちます。内部のスキャンエリアの入念な清掃方法について、次のセクションで説明します。清掃の頻度は、スキャンの頻度とメディアのタイプによって異なります。主に新聞や古い青焼きの原稿をスキャンする場合は、カタログや最近の図面だけをスキャンする場合より頻繁に清掃する必要があります。良好なスキャン結果が得られなくなったときには、必ずスキャナの清掃を行ってください。スキャンエリアに粉塵があると、スキャン結果に縞が現れやすくなります。

- **キャリブレーションとカメラ調整**

スキャナのキャリブレーション（補正）は簡単に実行でき、大部分は自動化されています。スキャナの補正では、カメラ調整とモノクロパラメータおよびカラーパラメータの補正が行われます。スキャナの補正を実行するには、キャリブレーションシートを使用します。良好な出力が得られない場合は、必ず補正を行ってください。補正を行う前に、スキャナが汚れていないことを確認してください。

- **磨耗した部品の交換**

画面に警告が表示された場合や磨耗した部品によってスキャン結果の画質が低下した場合は、部品を交換する必要があります。

交換可能な部品：

- カラスプレート
- ホワイトバックグラウンド



注記： 次ページの主要なメンテナンス箇所の概要を参照してください。

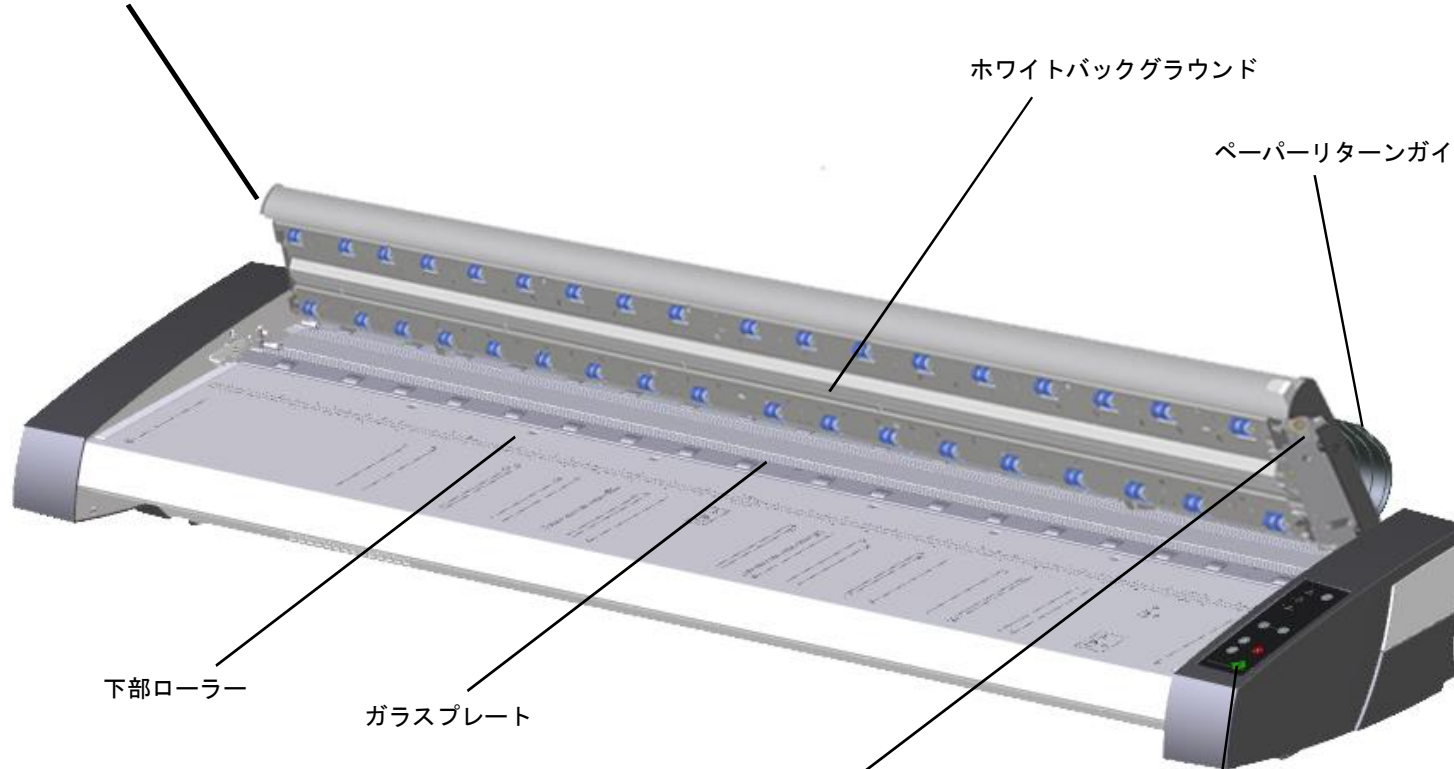
主要なメンテナンス箇所

下の図はスキャナのトップカバーを開けた状態を示しています。スキャナの清掃や部品の交換を行うときに把握しておく必要のある重要箇所(部品および場所)が示されています。以降のセクションで作業手順を説明します。

トップカバーリリースレバー

ホワイトバックグラウンド

ペーパーリターンガイド



下部ローラー

ガラスプレート

メンテナンスでスキャナのカバーを開けるためのリリースレバー

キーパッド/オペレータパネル

メンテナンス

スキャニングエリアの清掃

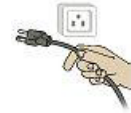
以下の手順に従ってスキャナおよびスキャンエリアを入念に清掃します。良好なスキャン結果が得られなくなったときには、必ずスキャンエリアの清掃を行ってください。スキャンエリアに小さなほこりが付着しているだけでも、スキャンしたイメージに縞模様が入る可能性があります。

以下のスキャナの箇所、部品は、必ず清掃してください。

1. スキャナの給紙台
2. ガラスプレート
3. ホワイトバックグラウンド
4. 上下のローラー

! **注意：** 研磨剤、アセトン、ベンゼン、またはこれらの化学物質を含む液体は使用しないでください。スキャナのガラスプレートやスキャナ内のどの部品にも、液体を直接吹き付けしないでください。

! **警告：** スキャニングエリアを清掃する前に、必ずスキャナの電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。

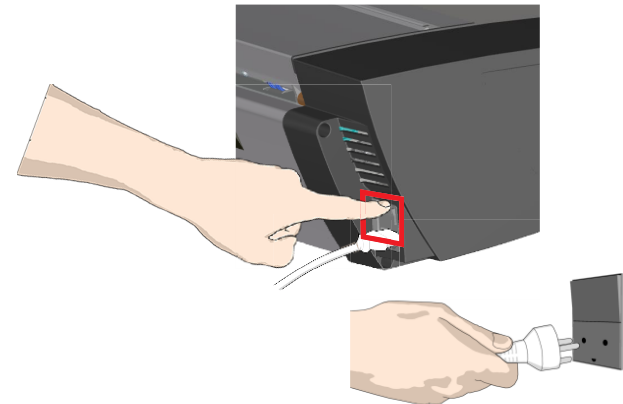


スキャニングエリアの清掃

23

スキャナの電源を切り、電源ケーブルを抜く

- 主電源スイッチ(スキャナ背面)をオフにします。
- 電源ケーブルを取り外します。



メンテナンス

スキャニングエリアの清掃

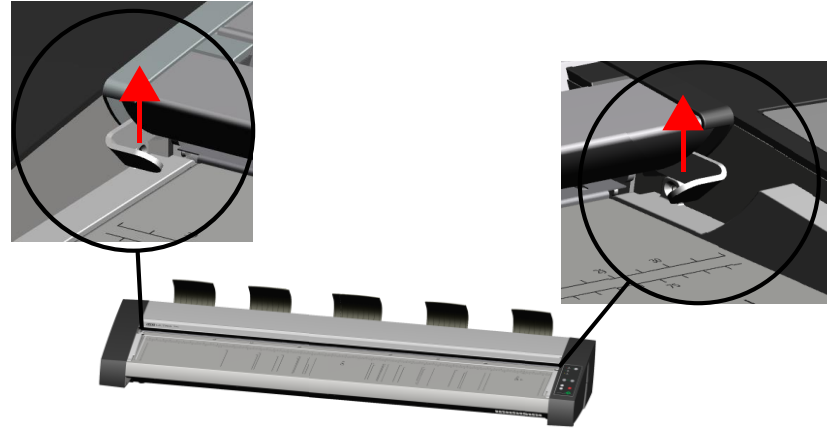
24

リリースレバーでトップカバーを開く

スキャナの梱包および輸送中に内部のスキャンエリアにたまったほこりを拭き取る必要があります。スキャンエリアはトップカバーの下にあるため、カバーを開ける必要があります。トップカバーのリリースレバーはカバーの両側面にあります。

- スキャナの前に立ちます。
- 同時に両方のカバーリリースレバーに親指を当て、カバーのラッチが外れるまでボタンを押し上げます。

スキャナ両端のレバーを上押ししてスキャナのカバーを開ける

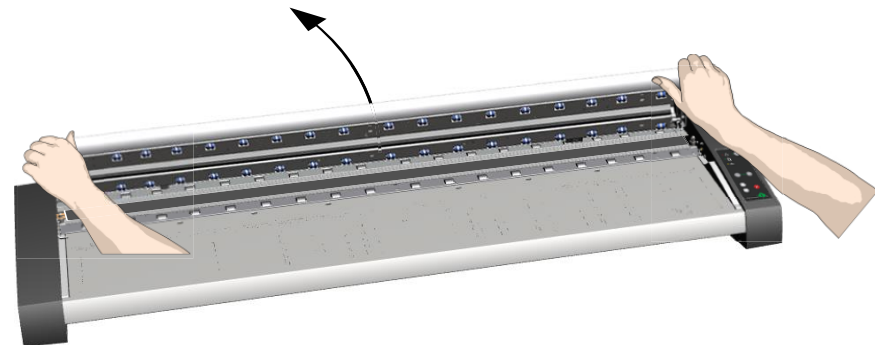


スキャニングエリアの清掃

25

トップカバーを完全に開く

- カバーは、ラッチが解除されると後方に跳ね上がります。
- カバーを支えながら完全に開き、スキャンエリアを露出させます。



メンテナンス

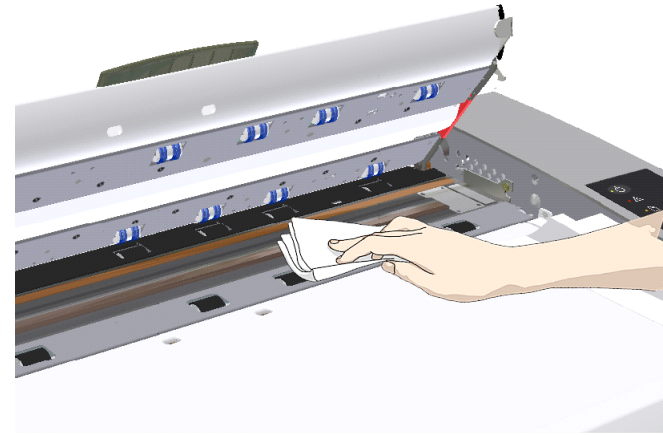
スキャニングエリアの清掃

26

ガラスプレートを清掃する

- 糸くずの出ない布と、縞模様を残さないマイルドなガラスクリーナーを使用して、ガラスを清掃します。布にガラスクリーナーをつけ、ガラスプレートを拭きます。
- メンテナンスキットに入っているものと同じような、糸くずの出ない乾いた布を別途用意して、ガラスを完全にかから拭きします。

! 注意： スキャナのガラスプレートに直接液体を吹き付けしないでください。



スキャニングエリアの清掃

27

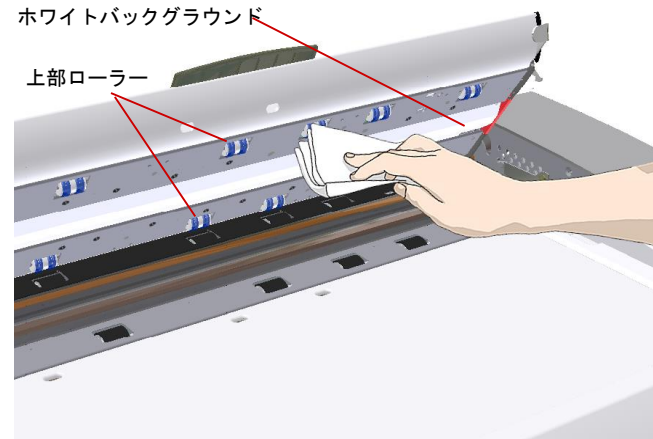
ホワイトバックグラウンドと上部ローラーの清掃

ホワイトバックグラウンド(白いプレート)は、トップカバーの下、スキャンエリアに固定されています。上部のローラーは、ホワイトバックグラウンドの両側に並んでいます。

糸くずの出ない布と、縞模様を残さないマイルドなガラスクリーナーを使用します。布にガラスクリーナーをつけ、ホワイトバックグラウンドを拭きます。

ホワイトバックグラウンド全体を拭いた後、別の布で両側に付いている上部のローラーをすべて拭きます。ホワイトバックグラウンドとローラーをから拭きして完全に乾かします。

! 警告： スキャンエリアに液体を直接スプレーしないでください。



スキャンエリアの清掃

28

下部のローラーを清掃する

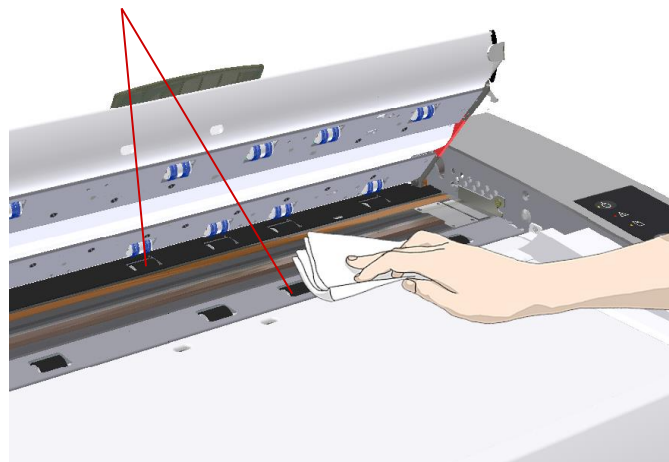
下部のローラーは黒いゴム製のローラーで、ガラスプレートの両側に並んでいます。

1. 糸くずの出ない布と、縞模様を残さないマイルドなガラスクリーナーを使用します。布にガラスクリーナーをつけ、ガラスプレートの両側に並んでいる下側のローラーを拭きます。
2. 糸くずの出ない乾いた別の布を使用し、下側のローラーをから拭きして完全に乾かします。



注意: スキャンエリアに直接液体を吹き付けしないでください。

下部ローラー

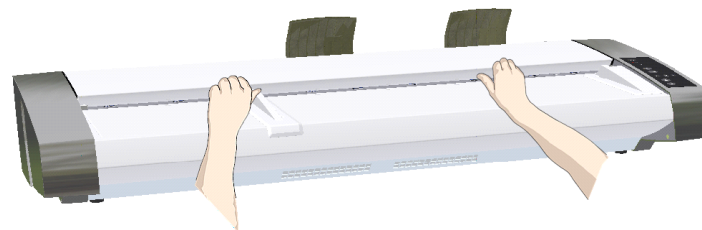


スキャンエリアの清掃

29

トップカバーを閉じる

- 清掃が終了したらトップカバーを押下げて閉じます。
- カバーの上側をロックがかかる(カチッと音がする)まで静かに押し下げます。



メンテナンス

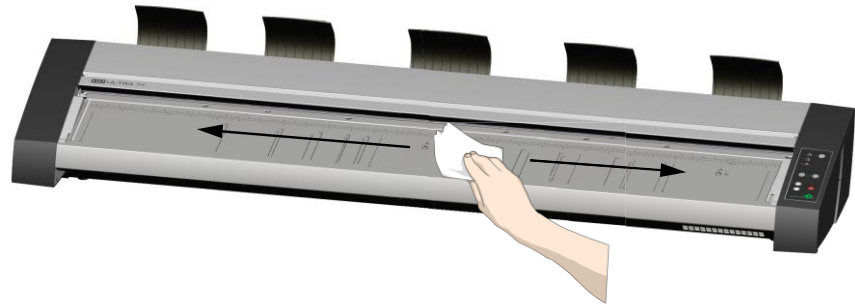
スキャニングエリアの清掃

30

給紙台を清掃する

給紙台とは原稿挿入口手前のフラットなエリアです。

スキャンエリアに原稿とともにほこりが入り込まないように、スキャナの給紙台を清掃します。スキャンエリアに埃が入るとスキャンした画像に縦縞が入ったりする可能性があります。



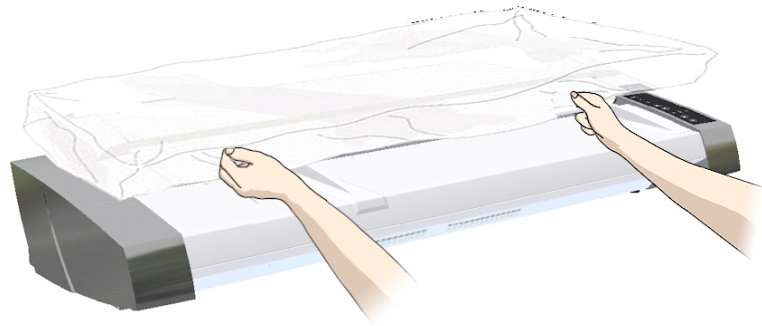
スキャニングエリアの清掃

31

使用しない時はカバーをする

長時間使用しない場合や、環境が埃っぽい場合は、プラスチック製の防塵カバーでスキャナを覆ってください。

⚠ 警告： 防塵カバーを使用するときには、スキャナの電源がオフになっていることを確認してください。



メンテナンス

カメラ調整と補正

スキャナの補正は、簡単に実行できます。補正を実行するには、ドライバとともにインストールした WIDEsystem プログラムを使用します。スキャンエリアを清掃した後に補正ウィザードを起動し、それに従って補正を行います。キャリブレーションシートを挿入するように指示されますが、それ以外は自動的に補正処理が行われます。



注記： スキャナの清掃と補正の関係：スキャナを清掃すると改めて補正を行う必要が生じ、また正確な補正を行うためにはスキャンエリアが汚れていないことが大変重要です。

補正を行う前にスキャナを清掃してください。

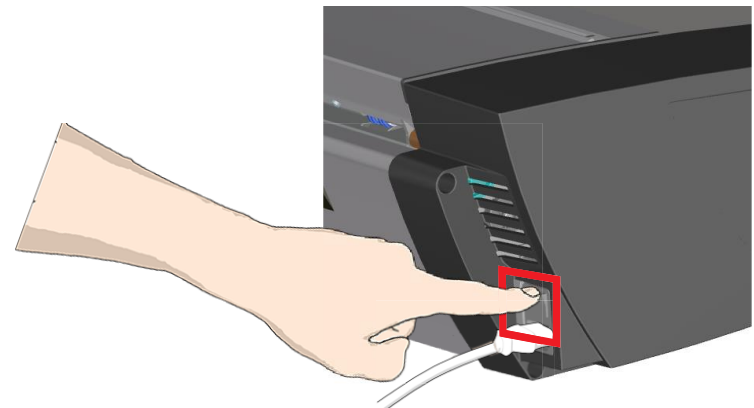
補正を行うにはスキャナがしっかりと清掃されていなければなりません。

補正

32

スキャナの電源を入れる

カメラ調整と補正は電源を入れてすぐに実行することができます。


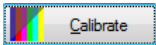


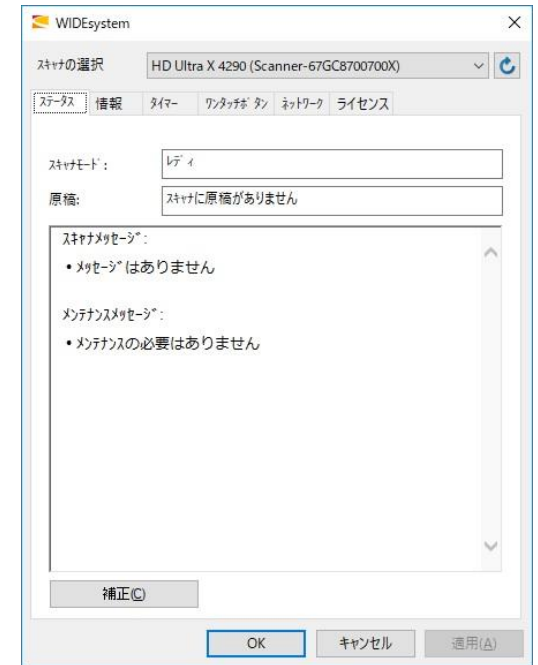
メンテナンス

補正

33

スキャナ補正ウィザードを起動する

- PC のシステムトレイにある WIDeSystem のアイコン  をダブルクリックして、WIDeSystem プログラムを開きます。
- [補正] ボタンを押します。 



補正

34

補正の種類を選択する

[カメラ調整]と[完全補正]のいずれかを選択します。

- カメラ調整は、画像のステッチが正しく行われるようにカメラを最適化します。
- 完全補正では、ステッチ調整、白/黒補正、およびカラー補正が行われます。



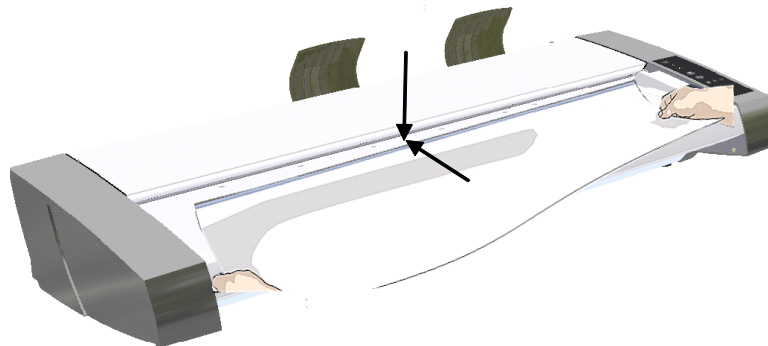
補正

35

キャリブレーションシートを挿入する

ウィザードの実行中にスキャナに付属のキャリブレーションシートを挿入するように指示されます。シートの印刷面を上にして挿入します。シート中央の矢印とスキャナの中央の矢印を合わせ、シートをスキャナにセットします。

ウィザードの[次へ]ボタンをクリックして続行します。



補正

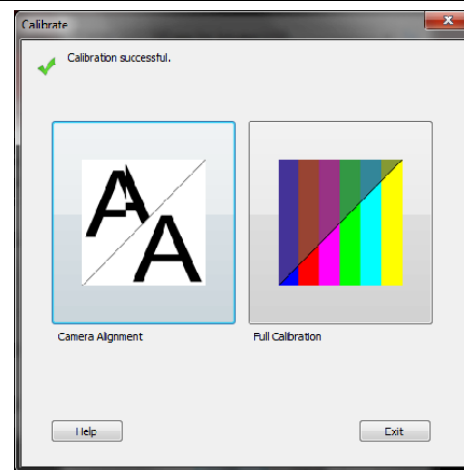
36

ウィザードによるスキャナの補正

キャリブレーションシートが繰り返しスキャンされ、プログラムがデータを処理します。この作業は数分で完了します。

補正の完了後：

- キャリブレーションシートをスキャナから取り出し、同梱の保管フォルダに入れます。
- 直射日光の当たらない乾燥した場所にフォルダを保管します。キャリブレーションシートが入ったフォルダは折り曲げないでください。



メンテナンス

スキャナの部品を交換する

このセクションでは、長期間の使用で消耗しやすいスキャナの部品の交換方法を説明します。最適な画像品質を保つには部品の交換が必要になることがあります。WIDeSystem はスキャナの使用状況をモニタリングし、交換の時期になると警告メッセージを表示します。

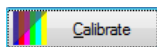
次の部品を交換することができます。

- ガラスプレート
- ホワイトバックグラウンド

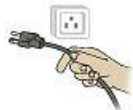


WIDeSystem 警告フラグについて： ガラスプレートまたはホワイトバックグラウンドプレートの交換

- WIDeSystem の警告に従って部品を交換した場合は、必ず WIDeSystem の [ステータス] タブで部品交換警告フラグをリセットしてください。
- 部品を交換すると、スキャンエリアの状態が変化します。そのため、これらの部品を交換し、清掃した後に再補正を実行することをお勧めします。WIDeSystem を起動し、[補正] を選択します。



安全上の重要な指示： 部品を交換する前に、必ずスキャナの電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。



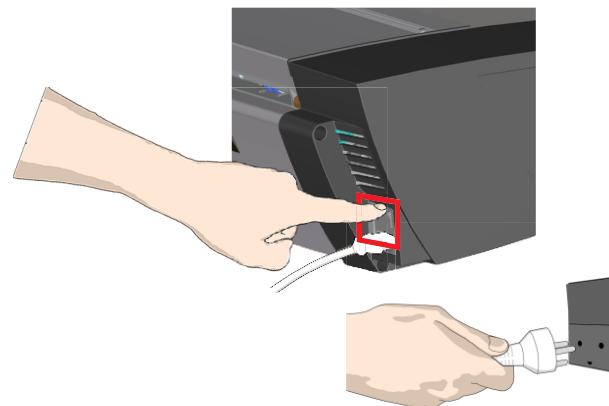
ガラスプレートの交換

ガラスプレートの交換

37

スキャナの電源を切り、電源ケーブルを抜く

- スキャナ背面の主電源スイッチをオフにします。
- 電源ケーブルを抜きます。



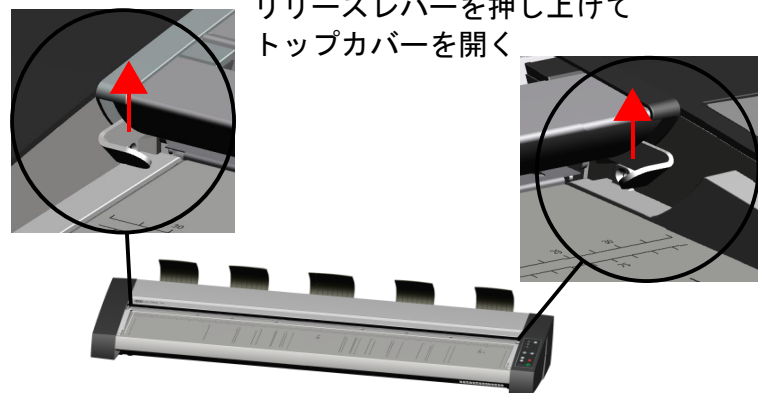
ガラスプレートの交換

38

リリースレバーでトップカバーを開く

スキャナのトップカバーの両側にあるレバーを押し上げてロックを解除してカバーを完全に開きます。

- スキャナの前に立ちます。
- 同時に左右のカバーリリースレバーに親指を当て、カバーのラッチが外れるまで押し上げます。

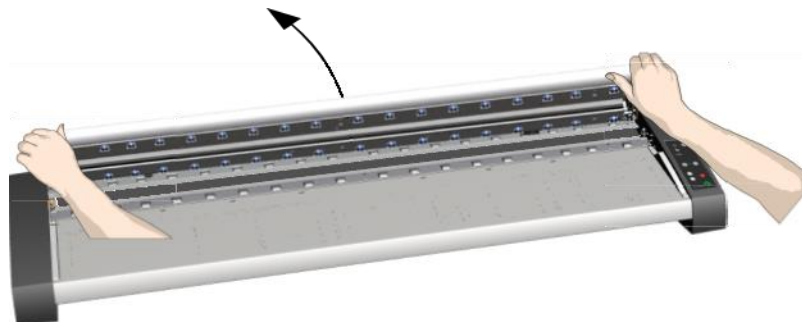


ガラスプレートの交換

39

トップカバーを後方に開く

- レバーを離すとカバーが上方方向に開きます。
- カバーを支えながら完全に開き、スキャンエリアとガラスプレートを露出させます。

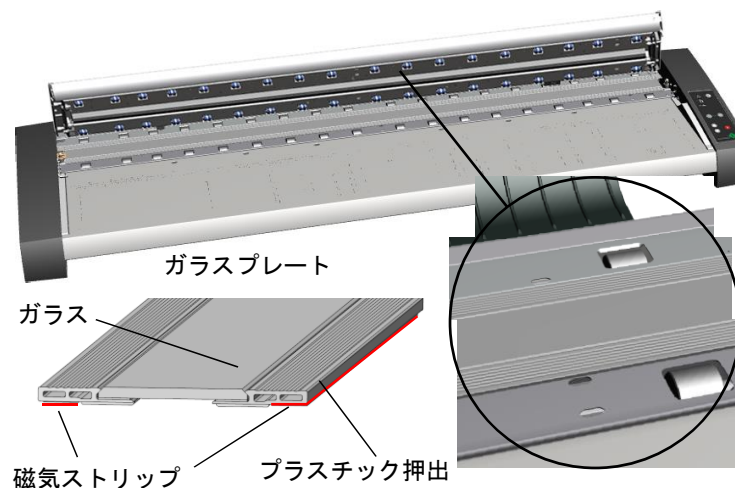


ガラスプレートの交換

40

ガラスプレートの位置を確認する

- ガラスプレートは給紙台の背後、ゴム製のローラーが入っている2本の押出加工されたプラスチック製のラインに挟まれています。
- ガラスプレートの長さに沿って貼られている磁気性のストリップでスキャナに取り付けられています。このガラスプレートは簡単に交換することができます。



ガラスプレートを取り外す

ガラスプレートの取り付け

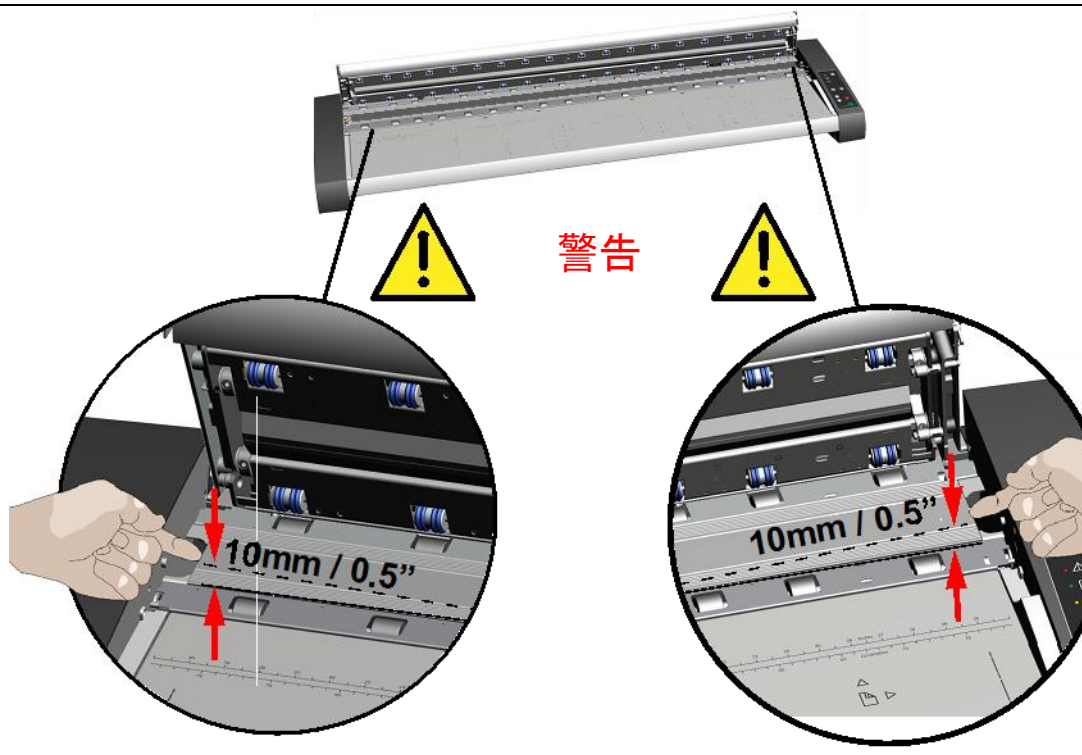
41

ガラスプレートを取り外す

- ガラスの両端の下に指を入れ、一方の端からゆっくりと上方向に引きながらスキャナから離します。
- 10mm 以上持ち上げないでください。
詳細は次のページをご覧ください。

警告：この時点では、ガラスをスキャナから完全に持ち上げないでください。

正しく作業しないと、ガラスが壊れる可能性があります。



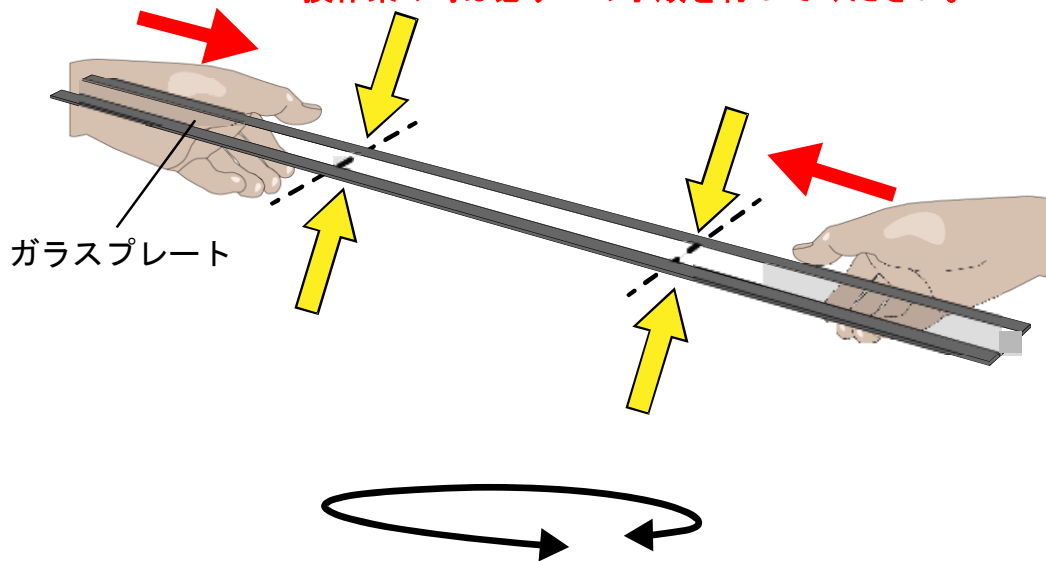
ガラスプレートの交換

42

ガラスプレートを取り外す

- ガラスプレートをスキャナから離す前に、右図の黄色の矢印に手を移動します。
- 新しいガラスプレートを取り付ける前にガラスがきれいで欠けたり割れたりしていないか確認します。取り外した時と同じように取り付けるときも右図に示すようにガラスを持ちます。
- ガラスプレートには右側、左側の指定がありません。

ガラスの両端をスキャナから外したら必ず下図のように両手をガラスの内側（黄色の矢印）に移し、壊れないようにサポートします。ガラスの交換作業の時は必ずこの手順を行ってください。



ガラスプレートの右側、左側の指定はありません

ガラスプレートの取り付け

ガラスプレートの取り付け

43

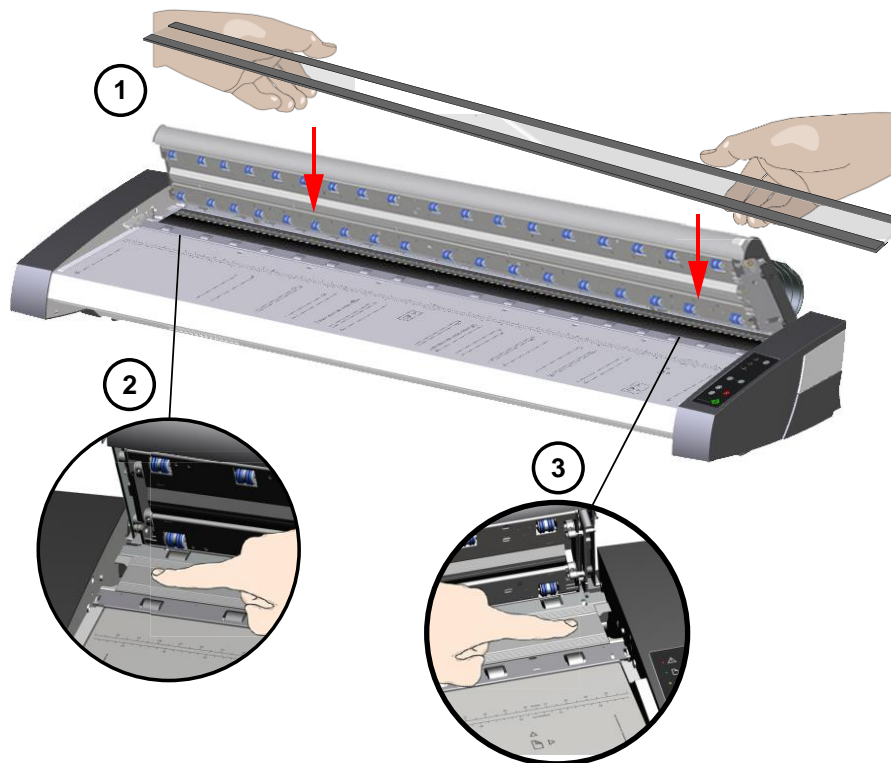
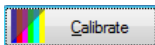
新しいガラスプレートを取り付ける

- スキャナ内部の平らな磁気面がきれいで、汚れやほこりがないことを確認してください。必要に応じて小型の吸引ツールを用いて埃を吸い取ってください。
- 新しいガラスプレートを、スキャンエリアのそばに十分に注意しながら持ってきます。
- この作業中にスキャナに埃やチリを入れないように気を付けてください。
- 両手の指先でガラスをサポートし、ガラスプレートの両端をスキャナにある 4 か所の位置決めポイントに慎重に置きます。
- ガラスの下に貼られている磁気ストリップは、一度ガラスが位置付けられるとその位置に固定します。指先でガラスが正しく装着されていることを確認します。



注記：作業中にガラスプレートの両面についての指紋を拭いてください。

ガラスプレートを交換した後は補正を行うことをお勧めします。



ホワイトバックグラウンドの交換

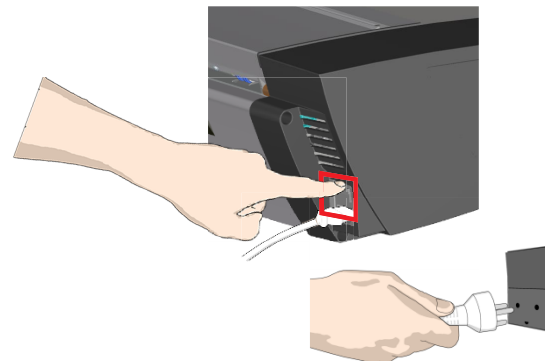
ホワイトバックグラウンドは長く使用していると摩耗して変色することがあります。その場合には新品のホワイトバックグラウンドと交換することをお勧めします。WIDEsystem はスキャナの使用状況をモニタリングし、交換の時期になると警告メッセージを表示します。

ホワイトバックグラウンドの交換

44

スキャナの電源を切り、電源ケーブルを抜く

- スキャナ背面の主電源スイッチをオフにします。
- 電源ケーブルを抜きます。



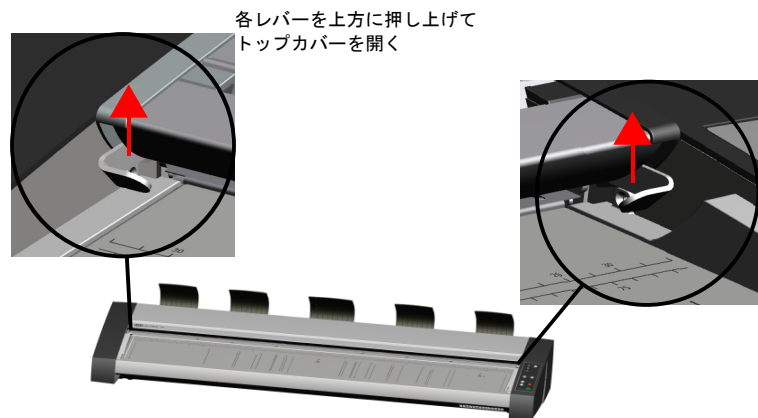
ホワイトバックグラウンドの交換

45

リリースレバーでトップカバーを開く

トップカバーの両側にあるリリースレバーを押し上げてトップカバーを開き、スキャンエリアにアクセスします。

- スキャナの前面に立ちます。
- 左右のカバーリリースレバーに親指を当て、カバーのラッチが外れるまでボタンを押し上げます。

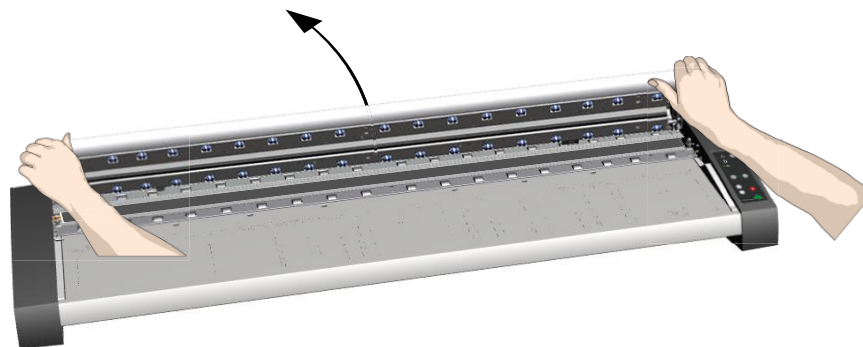


ホワイトバックグラウンドの交換

46

トップカバーを完全に開く

- カバーはラッチが解除されると跳ね上がります。
- カバーを支えながら完全に開き、カバーの下側を露出させます。

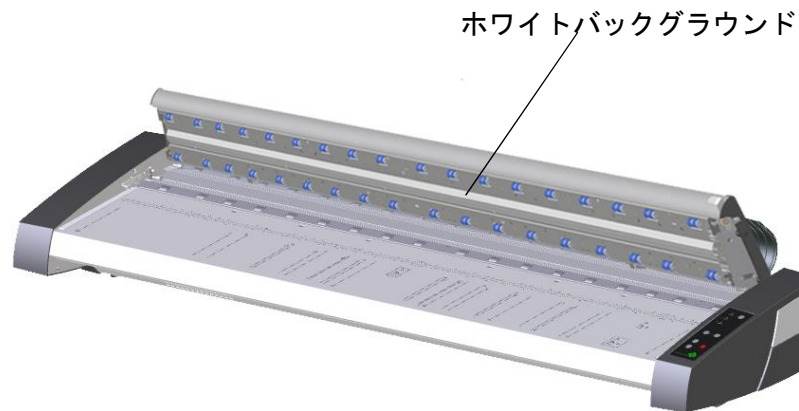


ホワイトバックグラウンドの交換

47

ホワイトバックグラウンドを確認する


- ホワイトバックグラウンドは消耗品でトップカバーの内側の所定の位置にはめ込まれています。取り外すにはホワイトバックグラウンドの下側を引っ張って取り外します。
- ホワイトバックグラウンドがスキャナのカバーの中で緩めに固定されていることを確認します。正しく取り付けられていれば、指先で軽くたたくことでホワイトバックグラウンドがカバーの中で上下に動きます。



ホワイトバックグラウンドの交換

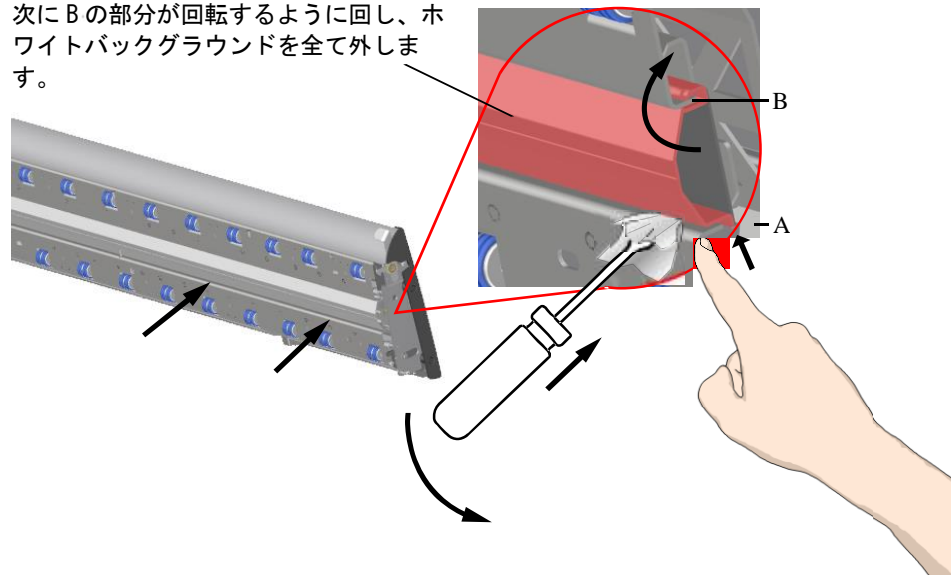
48

ホワイトバックグラウンドを取外す

- はじめに、万が一ホワイトバックグラウンドを取り外し中に落としてガラスプレートを傷つけないように、ガラスプレートをあらかじめ取り外しておくことをお勧めします。
- マイナスドライバの刃先を柔らかい布で覆い、ホワイトバックグラウンドの右端下部（右図A）に差し込んでドライバを持ち上げるようにしてホワイトバックグラウンドが取り付けられているスロットから取り出します。
- ドライバを左へずらすようにして、ホワイトバックグラウンドの下部（スキャナ正面から見て奥側）をすべてスロットから取り出します。
- 次に、ホワイトバックグラウンドの右端上部（右図B）をスロットから取り外すため、ホワイトバックグラウンドを丸くたわませるようにして、下部を手前に引き、ホワイトバックグラウンドを回転させながら上部をスロットから外します。
- 完全に取り外します。
- 外れた部分から順に、左に向けて、同様に上部をスロットから外していきます。
-  **注記:** ホワイトバックグラウンドに過度の力を加えたり、本体から完全に取り外されていないときに無理に引き離したりしないでください。

Aにマイナスドライバ差し込んで外し、そのまま左側に移動させ下側全て手前に引き出します。
次にBの部分が回転するように回し、ホワイトバックグラウンドを全て外します。

ホワイトバックグラウンド（分かり易いように赤で示しています）



ホワイトバックグラウンドの交換

49

新しいホワイトバックグラウンドを取付ける

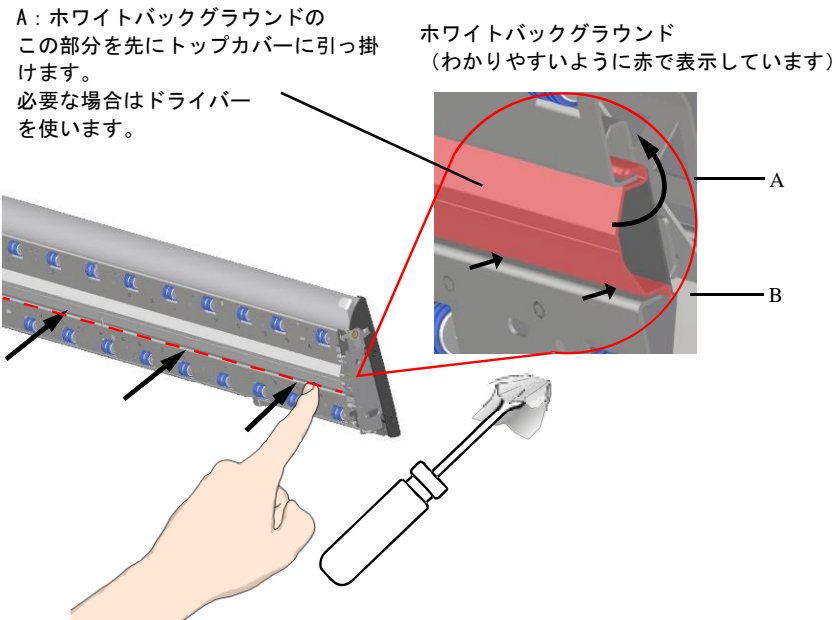
スキャナカバーの周囲がきれいで新しいホワイトバックグラウンドに埃がついていないか確認して下さい。

スキャナのカバーの右図の位置にホワイトバックグラウンドを取り付けます。ホワイトバックグラウンドは左右対称なので右側、左側の決まりはありません。

- ホワイトバックグラウンドの上端の全幅をスキャナのカバーに引っ掛けます。指、または柔らかめのツールでホワイトバックグラウンドの下側をゆっくりとスキャナのカバーに押し込みます。ホワイトバックグラウンドの一方の端から始め、全体がカバーにスナップして取り付けられるまで押し込みます。



注記: ホワイトバックグラウンドがスキャナのカバーの中で緩めに固定されていることを確認します。正しく取り付けられていれば、指先で軽くたたくことでホワイトバックグラウンドがカバーの中で上下に動きます。

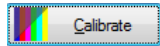


ホワイトバックグラウンドの交換

50

スキャナの準備

- スキャナのトップカバーを閉じます。
- 古いホワイトバックグラウンドの傷や汚れの情報が補正メモリに残らないようにホワイトバックグラウンドの交換後に再補正を実行することをお勧めします。



メンテナンス

新しいファームウェアのダウンロード

スキャナファームウェア

コンピュータと同様に、スキャナは動作するためにオペレーティングシステムを必要とします。このオペレーティングシステムは「ファームウェア」と呼ばれ、スキャナ内で実行され、スキャナを実行している PC ソフトウェアとプロセッサをリンクします。

ファームウェアのアップグレード

スキャナは最新のファームウェアを装備した状態で出荷されます。その後、新しいファームウェアがリリースされるたびに、オリジナルのファームウェアをアップグレードできます。ファームウェアの更新版は、メーカーの Web サイトからダウンロードしたり、販売代理店から入手できます。


以下のようなときにファームウェアをアップグレードします：

- 新しい機能がリリースされたり、ファームウェアを介してスキャナに改善が施された場合
- スキャナのファームウェアのバージョンにエラーが発見され、エラー修正済みの新しいファームウェアのバージョンをメーカーが推奨している場合



注記：ファームウェアのリリースノートには、新しいリリースで修正または追加された内容の詳細が明記されています。

スキャナで動作しているファームウェアのバージョン

- WIDEsystem アイコン  をダブルクリックして WIDEsystem を起動します。
- 「情報タブ」を選択します。

- インストールされているファームウェアのリリース番号
- インストールされているファームウェアのインストール日

ファームウェアリリース番号がメーカーの Web サイトにある最新のファームウェアバージョン番号よりも低い場合は、現在のファームウェアをアップグレードできます。

新しいファームウェアのインストール

ダウンロードしたファームウェア .exe ファイルが、スキャナに接続されている PC にあることを確認します。Web からダウンロードする場合は、「対象をファイルに保存」（または「リンク先を保存」）を選択します。

スキャナにファームウェアファイルをインストールするには：

1. web サイトにアクセスし、スキャナの新しいファームウェアを探します。
2. firmware .exe ファイルをダウンロードして PC のフォルダに保存します。
3. .exe ファイルをダブルクリックしてインストールウィザードを起動します。
4. 画面に表示されるウィザードの指示に従います。
5. インストールには 1 分ほどかかります。システムトレイの WIDEsystem スキャナアイコンが赤色に点滅します。



注記：WIDEsystem の更新 - ファームウェアをアップグレードするときには、必ず WIDEsystem を最新バージョンに更新してください。WIDEsystem は、メーカーの Web サイトから入手できます。

トラブルシューティング


トラブルシューティング

このセクションでは、スキャナで発生する可能性のある一般的な問題の解決方法について説明します。同じような、または似たような問題がここで説明されている場合、推奨されている解決方法を実行し、解決しなかった場合は修理依頼をすることをお勧めします。

エラー報告

スキャナがエラーを検出すると、スキャナパネルのエラーインジケータ（黄色）が点滅します。WIDeSystemのステータスタブがエラーを表示します。

一般的なエラーの修正

- エラーが画面のメッセージボックスに表示されます。WIDeSystemを開き（システムトレイにあるWIDeSystemのアイコン  をダブルクリック）、[ステータス]タブを選択してエラーの追加情報を確認します。
- 次のページのトラブルシューティングを参照し、当てはまる問題がある場合はその解決方法に従って作業をしてください。

技術サポート

以下の状況に該当する場合はサービスプロバイダに連絡してください。

- PCの画面に表示される方法でエラーを解決できない。
- エラーとその解決方法がこの取扱説明書に記載されていない。
- エラーメッセージが画面に表示されない。

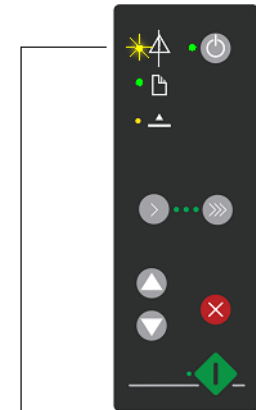
技術サポートに連絡する前に、以下の準備を行ってください：

- スキャナ背面のラベルに印刷されているスキャナモデルとシリアル番号を書き留めてください。
- ファームウェアのバージョンを書き留めてください。

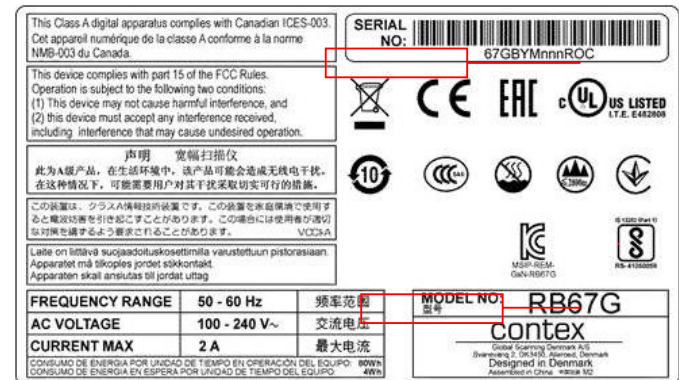
「スキャナで動作しているファームウェアのバージョン」を参照してください。



注記： サービスプロバイダの連絡先情報については、スキャナの製造元の web サイトを参照してください。



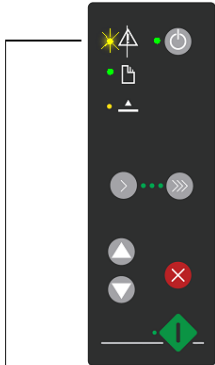
エラーの検出：黄色のLEDが点滅

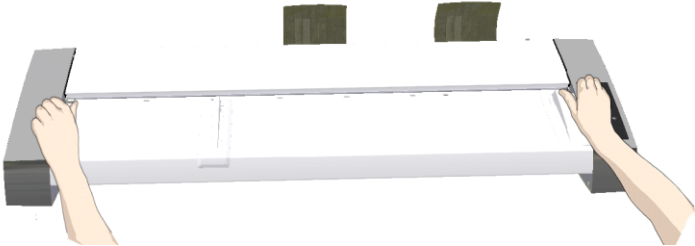
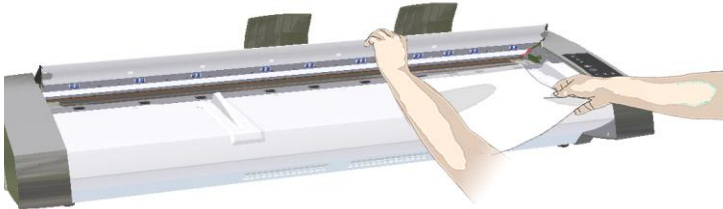


スキャナのインストールに関する問題と解決方法


問題	考えられる原因と解決方法
<p>「不明なデバイスが見つかりました」というメッセージが表示される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • インターフェースが PC で有効になっていないか、正しく設定されていません。インターフェースが正しくインストールされていることを確認して下さい。スキャナがスキャナに同梱するケーブルで接続されているか確認して下さい。 • スキャナを接続する前に WIDEsystem ドライバをインストールしていません。スキャナと PC の電源を切り、電源ケーブルと USB ケーブルを外して、このガイドの「インストール」の手順 1 からインストール作業を再度行ってください。WIDEsystem をインストールする前にスキャナのインストールを続行した場合は、以下のトラブルシューティング手順を参照してください。 • インターフェース接続が緩んでいます。スキャナと PC の両方でインターフェースケーブルを一旦外し、しっかり接続し直してください。 • システムの再起動が必要です。スキャナと PC の電源を切り、電源ケーブルと USB ケーブルを外してください。次に、USB ケーブルを接続し、PC の電源を入れます。Windows が起動したら、スキャナの電源ケーブルを接続し、主電源スイッチをオンにします。
<p>動作可能なドライバが見つからない - デバイスマネージャでスキャナに黄色のエラーアイコンが表示されている。</p>	<p>WIDEsystem をインストールする前にケーブルを接続し、スキャナのインストールを実行しようとする、「不明なデバイスが見つかりました」というメッセージが表示されます。このエラーを無視して次のダイアログへ進むと、スキャナは動作可能なドライバのない新しいデバイスとしてシステムに登録されます。この場合、Windows デバイスマネージャでは、スキャナに黄色のエラーアイコンが表示されます。スキャナを正しくインストールし直すためには、このスキャナエントリをデバイスマネージャから削除する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスマネージャでスキャナエントリを削除します。 • PC の電源を切りスキャナの電源を切って電源ケーブルを外し、スキャナと PC の接続ケーブルを外します。 • このガイドの「インストール」の手順 1 からインストールを実行します。スキャナを接続する前に WIDEsystem をインストールしてください。
<p>WIDEsystem がスキャナを検出しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • スキャナがスリープモードになっている可能性があります。電源ボタンを押してスキャナの電源をオンにしてください。 • PC にスキャナのモデルより古いバージョンの WIDEsystem ドライバがインストールされています。スキャナに付属の WIDEsystem TOOLS USB から WIDEsystem ドライバをインストールしてください。WIDEsystem TOOLS USB がない場合は、メーカーの Web サイトから最新バージョンをダウンロードするか、販売店に連絡して適切なバージョンの WIDEsystem を入手してください。 • スキャナを接続する前に WIDEsystem ドライバをインストールしていません。スキャナと PC の電源を切り、接続ケーブルを外して、インストールを手順 1 から再度行ってください。 • インターフェース接続が緩んでいます。スキャナと PC の両方でインターフェースケーブルをいったん外し、しっかり接続し直してください。 • システムの再起動が必要です。スキャナと PC の電源を切り、接続ケーブルを外してください。次に、USB/イーサネットケーブルを接続し、PC の電源を入れます。Windows が起動したら、スキャナの電源を接続し、主電源をオンにします。

一般的なスキャンの問題と解決方法

問題	考えられる原因と解決策
<p>エラーインジケータ LED の点滅</p>  <p>Error detected - yellow led blinks</p>	<p>エラーが発生しました。</p> <p>直ちにエラーメッセージが画面に表示される場合があります。表示されない場合は、WIDEsystem を開き(システムトレイのスクアナアイコン)、[ステータス]タブを選択してエラーの追加情報を確認します。以下の手順のうち1つを実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画面に表示される情報にエラーの解決方法が含まれている場合もあります。画面に表示される指示に従ってください。 • この取扱説明書でエラーの説明を探します。記載されている指示に従ってください。 <p>以下の1つ以上の状況に該当する場合は、サービスプロバイダに連絡してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PCの画面に表示される方法でエラーを解決できない。 • エラーとその解決方法がこの取扱説明書に記載されていない。 • エラーメッセージが画面に表示されない。
<p>技術サポートへの連絡が必要</p>	<p>問題への最善の解決策を迅速に得るためには、サービスプロバイダに技術サポートを依頼する前に、できるだけ多くの情報を用意する必要があります。サービスプロバイダの連絡先については、メーカーの Web サイトを参照してください。</p>

問題	考えられる原因と解決策
<p>エラーメッセージ: 紙詰まり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 原稿がスキャナの内部を通紙中にスキャナが停止し、用紙準備の LED が消えた(点滅後)場合は、紙詰まりエラーが発生したことを意味します。画面には紙詰まりエラーメッセージが表示されます。下記の手順で紙を取り除いてください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. スキャナから原稿を取り出します。 原稿戻しボタンまたは原稿送りボタンを押します。 2. 原稿が排出されない場合やボタンを押しても反応がない場合は、トップカバーを開けて原稿を取り出す必要があります。 3. 左右のカバーリリースボタンに親指を当て、カバーのラッチが外れるまでボタンを押し上げます。  <ol style="list-style-type: none"> 4. 片手でカバーを少し上げて、もう一方の手で紙を取り除きます。  <p>カバーを支えながら原稿を取り出します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. カバーを閉じます。 6. スキャナがレディ状態に戻ったら、原稿を再度挿入し、スキャンを実行します。 7. 再び紙詰まりエラーが発生した場合は原稿を挿入する前にソフトウェアで[低速給紙]オプションを選択してください。

問題	考えられる原因と解決策
<p>エラーメッセージ: カメラ X の補正に失敗しました</p>	<ul style="list-style-type: none"> このエラーメッセージは、多くの場合、内部のガラスプレートまたはホワイトバックグラウンドに付着した汚れやシミが原因で表示されます。 スキャンエリアを清掃し、スキャナを再起動してから、この取扱説明書の「メンテナンス」の項目に従ってメンテナンス作業(カメラ調整と補正)を実施します。 スキャンエリアを清掃しても問題が解決しない場合は、光学経路内に異物が入り込んだことが原因である可能性があります。 スキャンエリアから紙片などの異物を取り除いてください。 ごく小さな異物であってもスキャナの補正が正しく行えない原因になります。 問題が解決しない場合は、技術サービスプロバイダにサポートを依頼してください。
<p>エラーメッセージ: カメラ X/Y のステッチ調整に失敗しました</p>	<ul style="list-style-type: none"> このエラーメッセージは、多くの場合、内部のガラスプレートまたはホワイトバックグラウンドに付着した汚れやシミが原因で表示されます。 スキャンエリアを清掃し、スキャナを再起動してから、この取扱説明書の「メンテナンス」の項目に従ってメンテナンス作業(カメラ調整と補正)を実施します。 スキャンエリアを清掃しても問題が解決しない場合は、光学経路内に異物が入り込んだことが原因である可能性があります。 スキャンエリアから紙片などの異物を取り除いてください。 ごく小さな異物であってもスキャナの補正が正しく行えない原因になります。 問題が解決しない場合は、技術サービスプロバイダにサポートを依頼してください。
<p>エラーメッセージ: カメラを調整できません</p>	<ul style="list-style-type: none"> スキャナが標準のメディア厚に設定されていることを確認してください。スキャナのトップカバーを一番下（標準位置）に設定し、再度カメラ調整とキャリブレーション（補正）を実行してください。 メディア厚が標準に設定されているにもかかわらず、このエラーが発生する場合は光学経路内に異物が入り込んでいる可能性があります。スキャンエリアから紙片などの異物を取り除いてください。 ごく小さな異物であってもスキャナの補正が正しく行えない原因になります。 光学経路内の異物を取り除いても問題が解決しない場合、原因として多いのは、内部のガラスプレートまたはホワイトバックグラウンドに汚れやシミが付いていることです。 スキャンエリアを清掃し、スキャナを再起動してから、このガイドの「メンテナンス」の項目に従ってメンテナンス作業(カメラ調整と補正)を実施します。 スキャンエリアを清掃し、上記すべての対策を講じても問題が解決しない場合は、技術サービスプロバイダにサポートを依頼してください。

問題	考えられる原因と解決策
<p>ファームウェアのアップグレードが失敗してからスキャナが動作(反応)しなくなった。</p>	<p>停電等によって、実行中のファームウェアのアップグレードプロセスが中断した可能性があります。ファームウェアのアップグレードプロセスが中断された場合、スキャナは正常に動作しなくなります。ファームウェアの一部しかロードされない可能性があり、その場合はスキャナがアクセス不能になります。スキャナをセーフモードで再起動し、再度ファームウェアをインストールする必要があります。</p> <p>スキャナを再起動します。破損したファームウェアを検出した場合、スキャナはセーフモードで起動します。セーフモードであることを確認します。システムトレイのWIDEsystemスキャナアイコンをダブルクリックしてWIDEsystemを開きます。[スキャナ:]フィールドに「スキャナはセーフモードになっています」と表示されている必要があります。「ファームウェアのインストール」の手順を実行してください。</p> <p> 注記：セーフモードは、破損または中断したファームウェアのインストールを修復する目的でのみ使用してください。スキャナがセーフモードであるときにスキャンを行わないでください。</p>

スキャン結果に関連する問題

問題	考えられる原因と解決策
<p>イメージの一部がスキャンされない</p>	<ul style="list-style-type: none"> スキャンアプリケーションでサイズ設定が[自動検知]、または設定した用紙サイズがオリジナルの画像全体を取り込めるサイズであることを確認して下さい。 設定した原稿セット位置で正しく右合わせ、または中央合わせでセットされているか確認します。
<p>ステッチの問題 - イメージセクションのずれ(カメラとカメラの間 - ピクセルの重なり)</p>	<p>標準的な紙の薄手メディアをスキャンする場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> スキャナから原稿を取り出し、いったん電源をオフにしてから再起動します。スキャナがセルフテストを実行します。セルフテストではカメラのステッチ調整が行われます。 標準的な薄手の紙をスキャンします。上記の手順を実行しても問題が解決しない場合は、スキャナから原稿を取り出し、スキャナの完全なメンテナンス(清掃と補正)を実施します。 <p>厚手メディアをスキャンする場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> 厚手の硬い原稿がスキャナのローラーの上に乗るため、ガラスプレートとの間に少し間隔が空きます。これがステッチのずれの原因になることがあります。このような場合には、ステッチパラメータの変更が必要になります。ステッチパラメータは、スキャンアプリケーションを使用して変更できます。この取扱説明書の「厚手メディア位置でスキャンする時の注意点」を参照してください。 問題が解決しない場合は、技術サービスプロバイダにサポートを依頼してください。

<p>厚手原稿でのエッジ部の歪み</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 厚手の硬い原稿をスキャンする場合、原稿の先端が出口のローラーに触れたときや後端が入口のローラーに掛かっているときに、スキャン結果に歪みが生じることがあります。この問題を防止するために、拡張メディア厚位置にあるときには、デフォルトで先端および後端がスキップされます。 • 先端および後端のスキップは、スキャンアプリケーションの設定ダイアログでオン/オフを切り替えることができます。エッジ部の歪みが発生した場合は、アプリケーションで先端および後端のスキップオプションが設定されていることを確認してください。
<p>スキャンしたイメージにオリジナルの図面にはない1つ以上の細い垂直線(給紙方向)が現れる。</p>	<p>原因として多いのはガラスプレートの汚れです。ガラスプレートにほこりが付いていると、それが1か所であっても、場所が悪ければスキャン結果の全体に縞が発生することがあります。解決するには、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この取扱説明書に記載された手順に従ってガラスプレートとローラーを清掃します。 • ガラスプレートに付着する埃のほとんどは、挿入される原稿によって入り込みます。原稿を糸くずの出ない乾いた布で拭いて、埃を取り除いてからスキャナに挿入してください。 • 清掃を行っても問題が解決しない場合は、WIDEsystemを起動してスキャナの補正を実行します。スキャナは埃があった位置を記憶している可能性があるため、ほこりを除去した後に再補正を行う必要があります。 • 清掃と補正を行っても問題が解決しない場合は、ガラスプレートに傷がないかどうか確認してください。ガラスプレートに傷が付いている場合は交換が必要です。サービスプロバイダから新しいガラスプレートを入手してください。この取扱説明書に記載された手順に従ってガラスプレートを交換してください。 • キャリブレーションシートの破損も縞が現れる原因になります。新しいキャリブレーションシートを入手し、スキャナの再補正を行ってください。

付録

スキャナを安全に使用するための注意事項



これらの注意事項を全て読み、必要になる時のために保存してください。スキャナに付いている全ての警告および指示に従ってください。

- A. スキャナを不安定な場所、台車、または不安定なテーブルの上に置かないでください。本体が落下した場合、深刻な被害が生じる場合があります。
- B. 清掃する場合は、液体クリーナーやスプレー状のクリーナーをスキャナやスキャナのパーツに直接塗ったり、吹き付けたりしないでください。布にクリーナーを一旦吹き付け、その布でスキャナを清掃してください。
- C. 交換可能な部品を清掃/交換する前に、必ずスキャナの電源をオフにし、電源ケーブルを抜いてください。
- D. スキャナは、マーキングラベルに示された電源タイプで動作する必要があります。使用されている電源タイプが不明な場合は、販売代理店または地域の電力会社にご相談ください。
- E. このスキャナは、IT、TT、および TN 配電システムで使用するためのもので、3 線アースプラグが付いています。このプラグは、アース端子付き電源コンセントにのみ差し込むことができます。これは設置時の安全のための仕様です。プラグをコンセントに差し込めない場合は、電気技師に連絡して、コンセントを交換してください。アースプラグの目的を無視した使い方をしないでください。
- F. 電源ケーブルの上には何も置かないでください。コードが踏まれるような場所にスキャナを置かないでください。
- G. スキャナに延長コードを使用する場合は、延長コードに接続する製品の合計定格アンペアが延長コードの定格アンペアを超えないようにしてください。壁コンセントに差し込まれる全ての製品の合計定格が 15 アンペアを超えないようにしてください。
- H. 背面または底面のキャビネットにあるスロットや開口部は、通気のために設けられています。これは、操作の信頼性を確保し、製品を過熱か

ら保護するためのものです。これらの開口部をふさいだり覆ったりしないでください。ベッド、ソファ、じゅうたんなどの表面が柔らかいものの上に設置して、この開口部をふさいだり、覆ったりしないでください。この製品をラジエータや温風送風口の近くまたは上に設置しないでください。十分な通気ができない限り、スキャナをビルトイン式で設置しないでください。

- I. スキャナ筐体のスロットから内部にどのような物体も押し込まないでください。危険な電圧ポイントに接触したり、部品をショートさせ、火災や感電の危険を生じる可能性があります。スキャナに液体をこぼさないようにご注意ください。
- J. スキャナを自分で修理しようとししないでください。工具を使ってカバーを開けたり外したりすると、危険な高電圧のかかっている場所などに触れて事故を起こしたりする可能性があります。そのような箇所の修理は指定のサービス技師にご連絡ください。
- K. 次の状況の場合は、スキャナのコードを壁コンセントから抜き、指定のサービス技師にお任せください。
- 電源コードまたはプラグが損傷または摩耗している。
 - スキャナに液体がこぼれた。
 - スキャナが雨や水にさらされた。
 - 操作指示に従ってもスキャナが正常に動作しない場合は、この取扱説明書にある指示で説明されたコントロールのみを調整してください。この取扱説明書に記載された以外のコントロールを不適切に調整すると、恒久的な損傷をきたす結果になり、この製品を正常な動作状態に復旧するためには、資格を持つ技術者による大規模な作業が必要になります。
 - スキャナが落下した、またはキャビネットが損傷した。
 - スキャナの性能に、整備の必要性を示す著しい変化が見られる。

規制

FCC 規制

米国

注記：この装置は、FCC 規則第 15 章に定められたクラス A デジタルデバイスに関する規制要件に基づいて所定の試験が実施され、これに適合するものと認定されています。その規制要件は、装置が商業環境で動作するときの有害な電波妨害に対して十分な防御を提供するように設計されています。この装置は、電磁波を発生、使用、および外部に放射することがあり、取扱説明書どおりにインストールして使用しない場合は、無線通信に対する有害な電波妨害を起こす可能性があります。住宅地域でこの装置を使用すると有害な電波妨害を起こすことがあり、その場合ユーザは自己負担で電波妨害を解決する必要があります。メーカーの許可を得ずこの装置に変更や改造を行った場合、有害な電波妨害を引き起こす可能性があり、その場合本装置を使用する権利が規制される場合があります。

CE 規制

EU

警告

この装置は、EN55032 に定められたクラス A 製品に関する規制要件に基づいて所定の試験が実施され、これに適合するものと認定されています。

VCCI 規制

日本

この装置は、VCCI:2008 の合意 (CISPR 22) に定められたクラス A 製品に関する規制要件に基づいて所定の試験が実施され、これに適合するものと認定されています。

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A

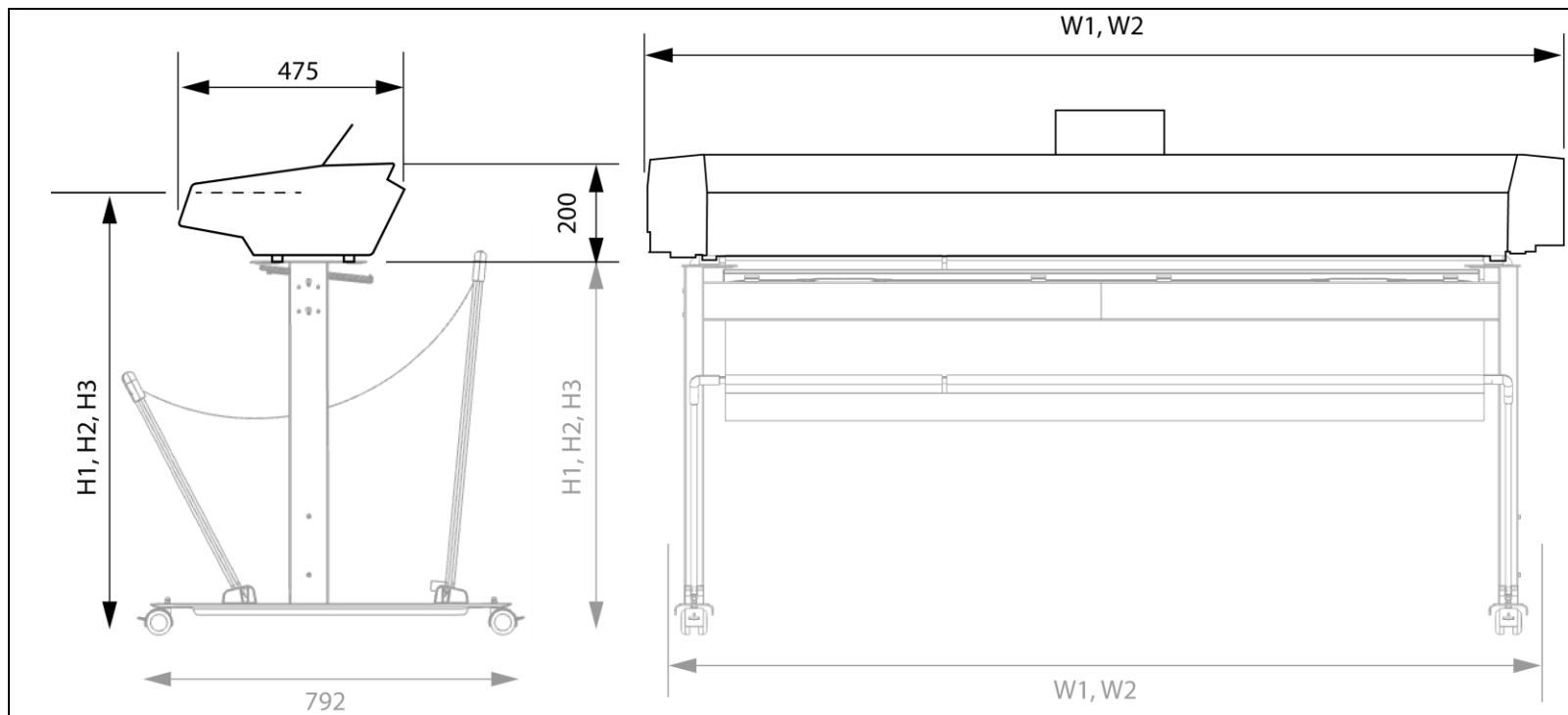
有毒/有害物質または成分

部品名	有毒/有害物質または成分					
	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (Cr (VI))	多臭素化ビフェニル (PBB)	多臭素化ジフェニルエーテル (PBDE)
スキャナ蛍光管	0	0	0	0	0	0

O: この部品に使用されているすべての均質物質に含まれるそれぞれの有毒物質または有害物質がSJ/T11363-2006に定められた規制値を下回っていることを示す。
 X: この部品に使用されている少なくとも1つの均質物質に含まれるそれぞれの有毒物質または有害物質がSJ/T11363-2006に定められた規制値を超えていることを示す。

2006.
 企業は、この欄に「X」の項目について実際の条件に基づく技術的な説明を記載する。

スキャナ寸法

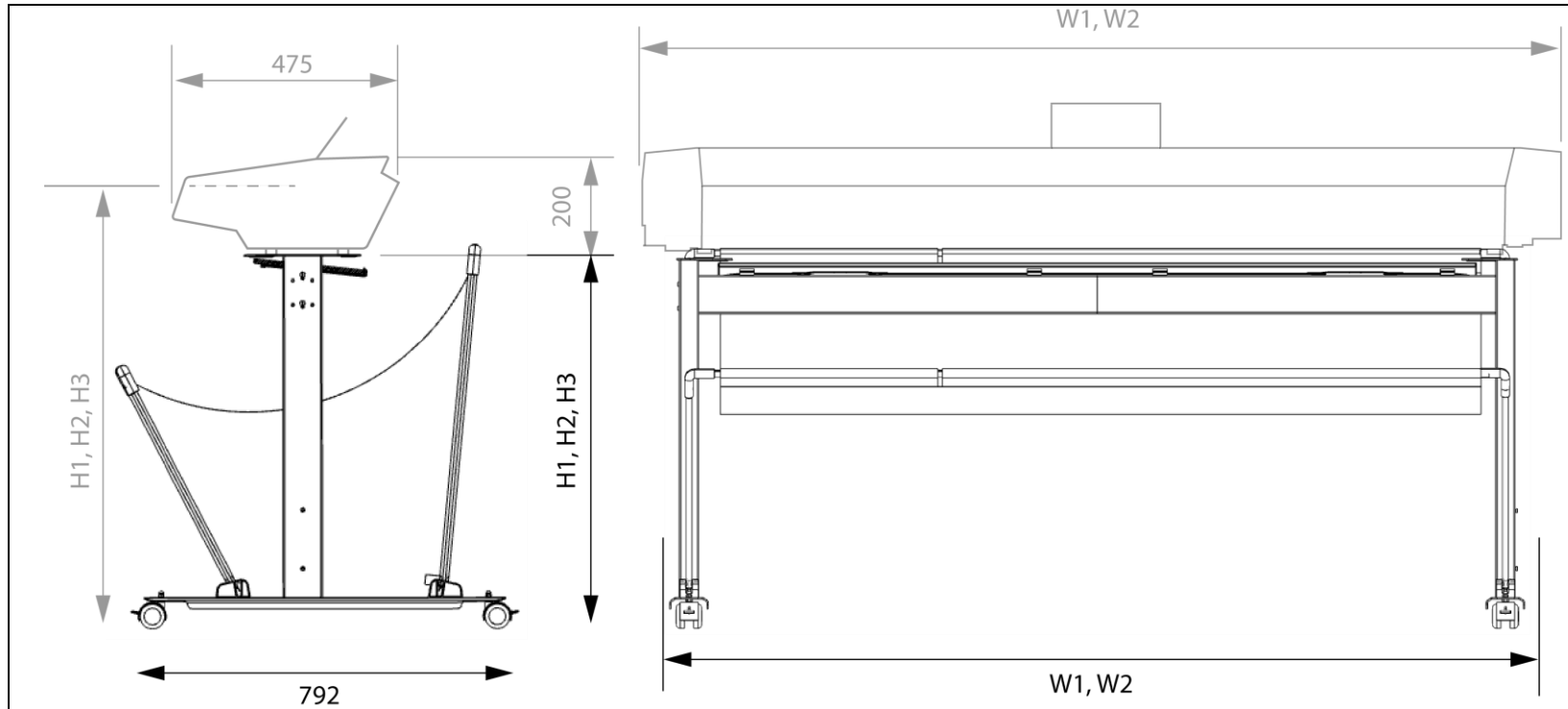


スキャナ	高さ mm			幅 mm	
	H1	H2	H3	W1 (36/42 インチモデル)	W2 (60 インチモデル)
給紙トレイの高さ (H) スキャナの幅 (W)	96.6	99.1	1016	1360	1810



注記: スタンドの高さは、3段階に調整可能です。詳細については、スタンドに付属する手順を参照してください。
高さ調整が可能なスタンドはHD Ultra X シリーズスキャナに標準装備されません。別途注文する必要があります。

高さ調整可能なスタンドの寸法



高さ調整スタンド	高さ mm			幅 mm	
	H1	H2	H3	W1 (36/42 インチモデル)	W2 (60 インチモデル)
高さ (H) 幅 (W)	766 (30.1)	791 (31.1)	816 (32.1)	1274	1796



注：スタンドは、3つの異なる高さに調整可能です。詳細については、スタンドに付属の手順を参照してください。
 高さ調整が可能なスタンドは、HD Ultra X シリーズスキャナに標準装備されません。別途注文する必要があります。

スキャナ本体総重量

HD Ultra X シリーズ スキャナ重量 kg	
36/42 インチモデル	60 インチモデル
49	63